

2025 年度

広島国際大学学生調査 報告

広島国際大学 IR センター

概要

本調査では、文部科学省が実施する「全国学生調査」と、広島国際大学が独自に実施する「広国調査」について、学生を対象としたアンケート調査を実施した。

「全国学生調査」では、

1. 大学に入ってから受けた授業
2. 大学在学中に経験した学修・教育活動の有用性
3. 大学教育を通じて身に付いた知識や能力
4. これまでの大学での学び全体に対する認識
5. 今年度前期の授業期間中における平均的な1週間の生活時間

の5分野について調査した。

「広国調査」では、

1. 広島国際大学の教育
2. 広島国際大学の学修生活
3. 広島国際大学のサービス
4. 広島国際大学の交流
5. 広島国際大学の総合的な満足度

の5分野について調査した。

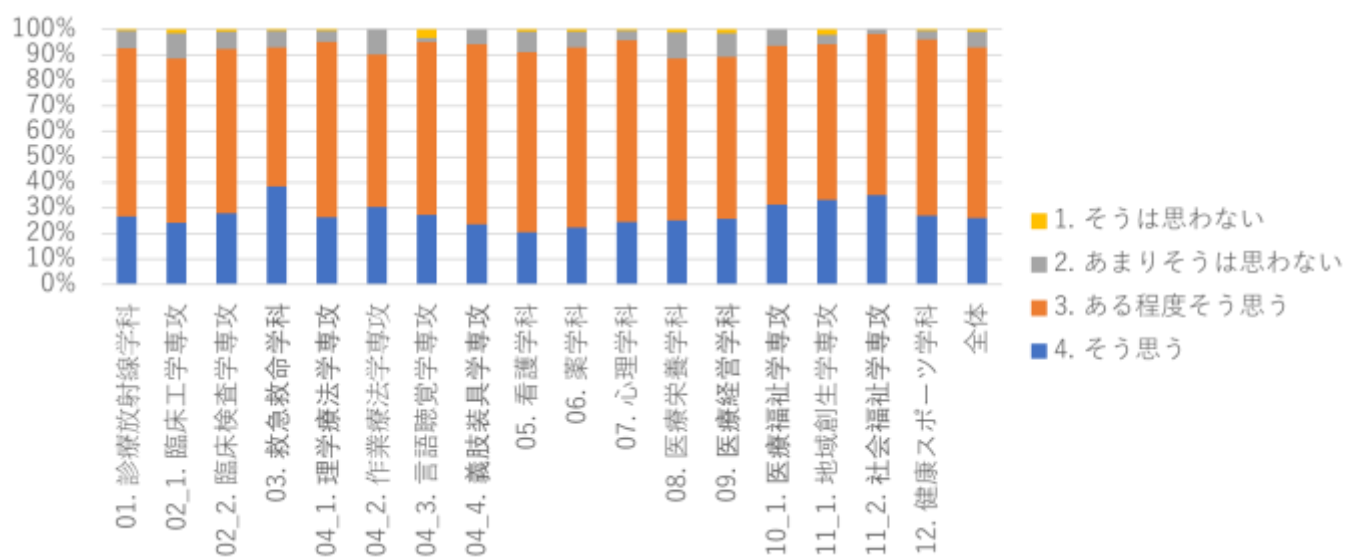
調査対象は、広島国際大学に在籍する全学生とし、2,596名から回答を得た。本報告書では、各調査分野におけるアンケート結果を示すとともに、その結果から把握される学生の評価や傾向について、各分野の総評として取りまとめた。

全国学生調査－1

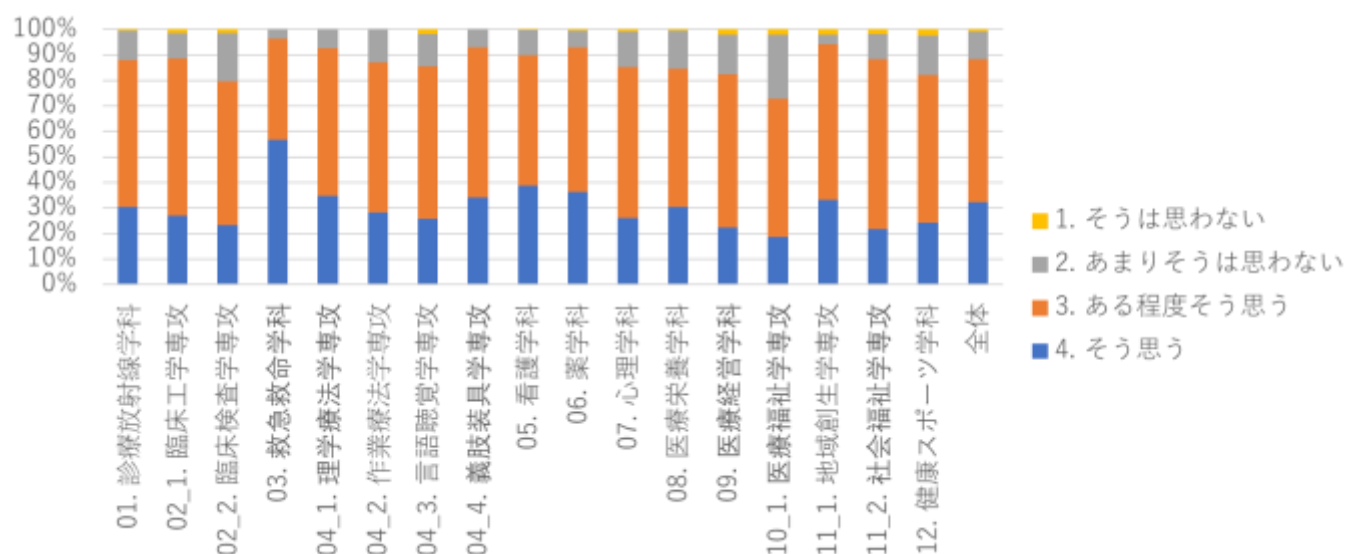
この設問は、大学入学後に受けた授業に関する取組や学修支援について尋ねたものである。各項目における肯定的な回答の割合は、1（教え方の工夫）が90%以上、2（時間外学修）が85%以上、3（提出課題のフォロー）が70%以上、4（グループ学習）が85%以上、5（教員との意見交換）が75%以上、6（TA等によるサポート）が60%以上であった。特に、教え方の工夫については90%以上、時間外学修およびグループ学習については85%以上と高い割合を示している。一方、TA等によるサポートは60%以上であり、他の項目と比較すると肯定的な回答の割合が低かった。

各設問における回答を次に示す。

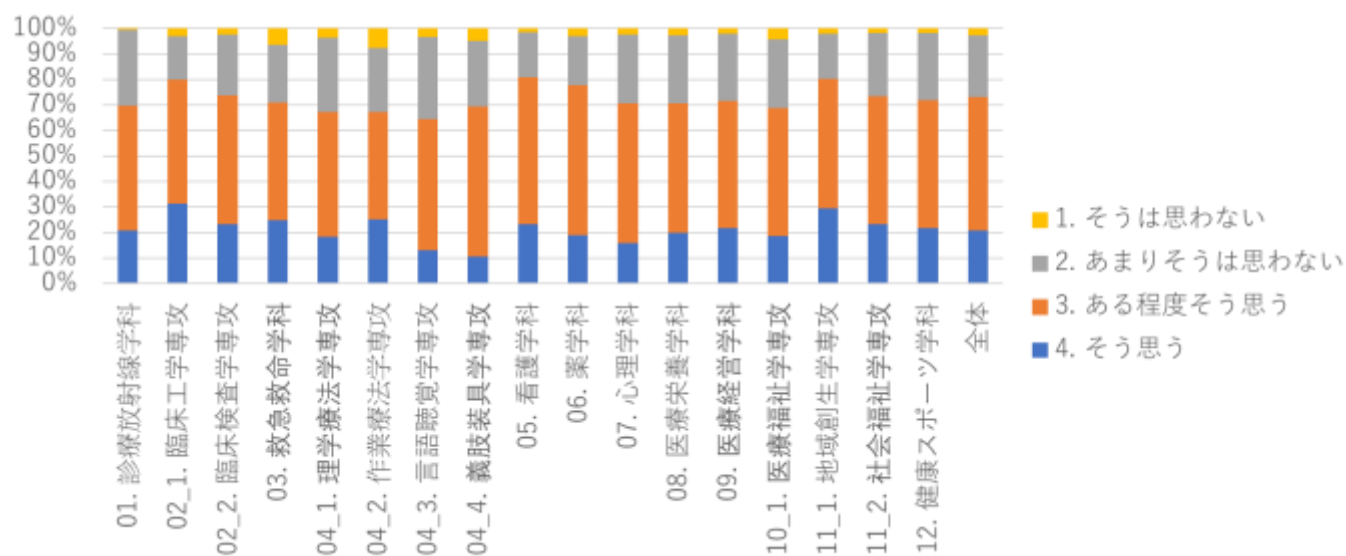
1-1 理解がしやすいように教え方が工夫されていた。



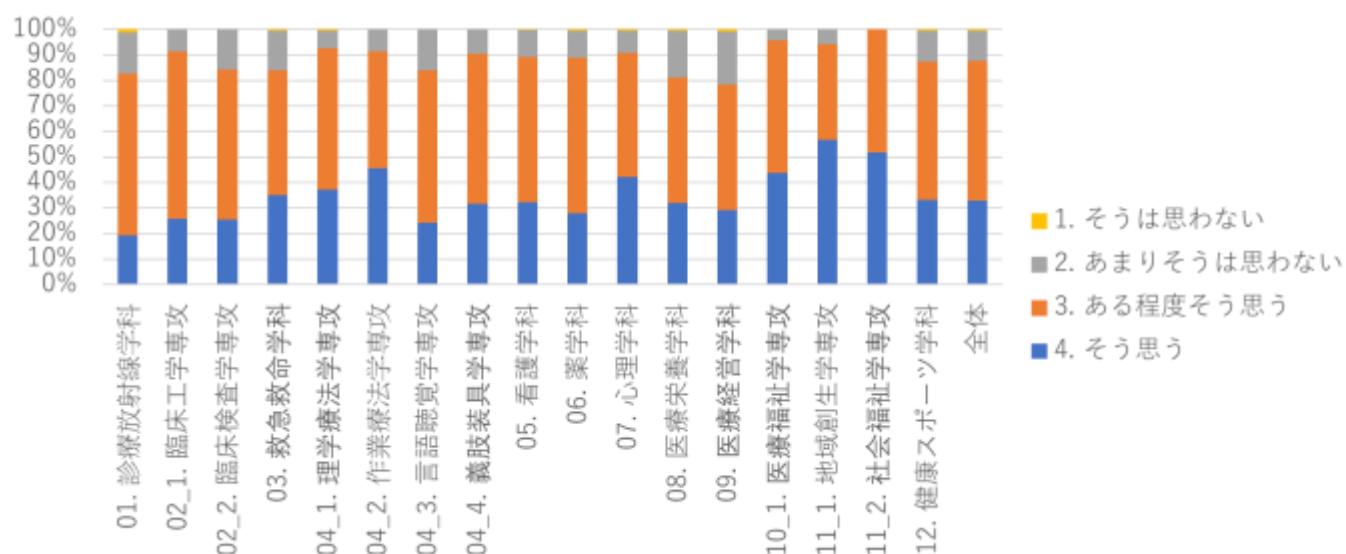
1-2 予習・復習など授業時間外に行うべき学習が指示される。



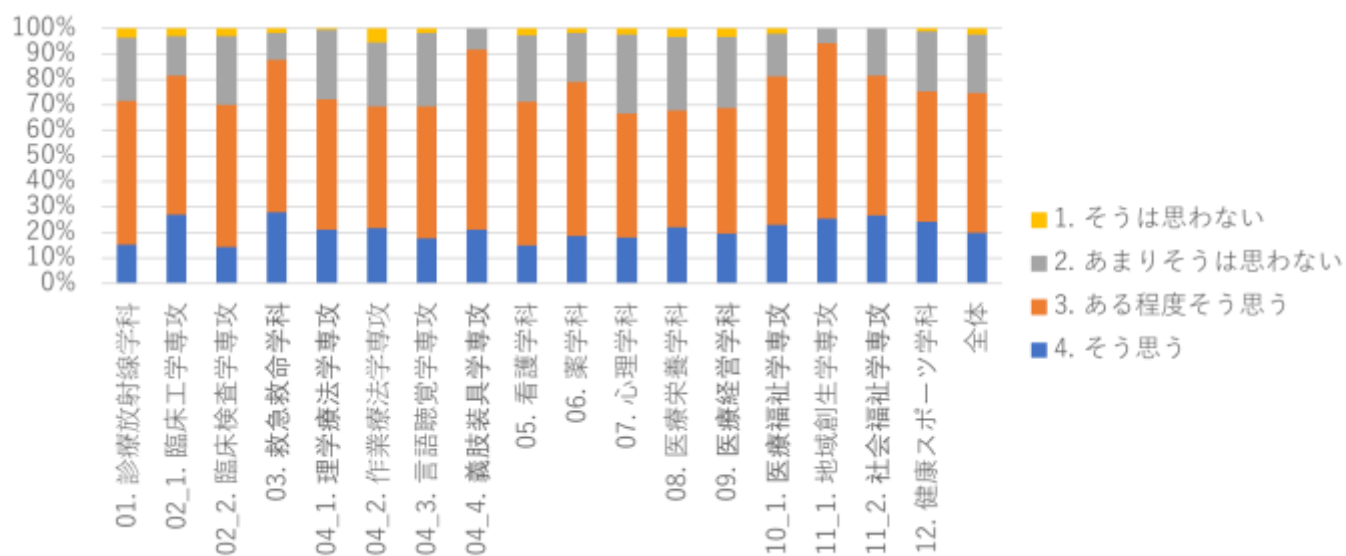
1-3 課題等の提出物に適切なコメントが付されて返却される。



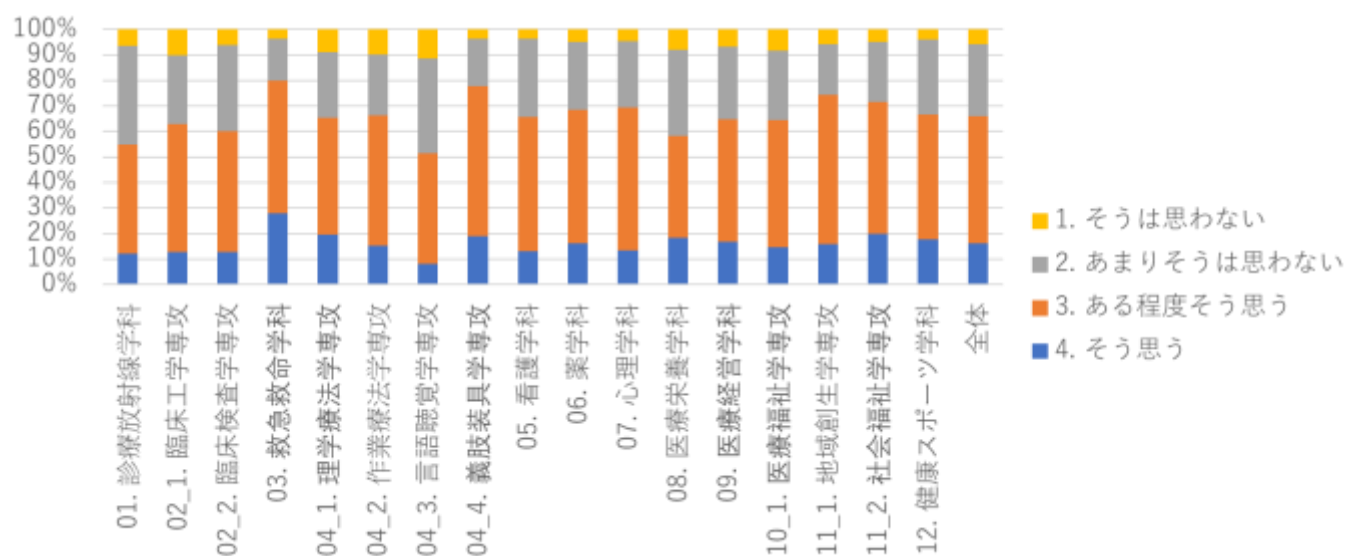
1-4 グループワークやディスカッションの機会がある。



1-5 質疑応答など、教員等との意見交換の機会がある。



1-6 ティーチングアシスタントなどによる補助的な指導がある。

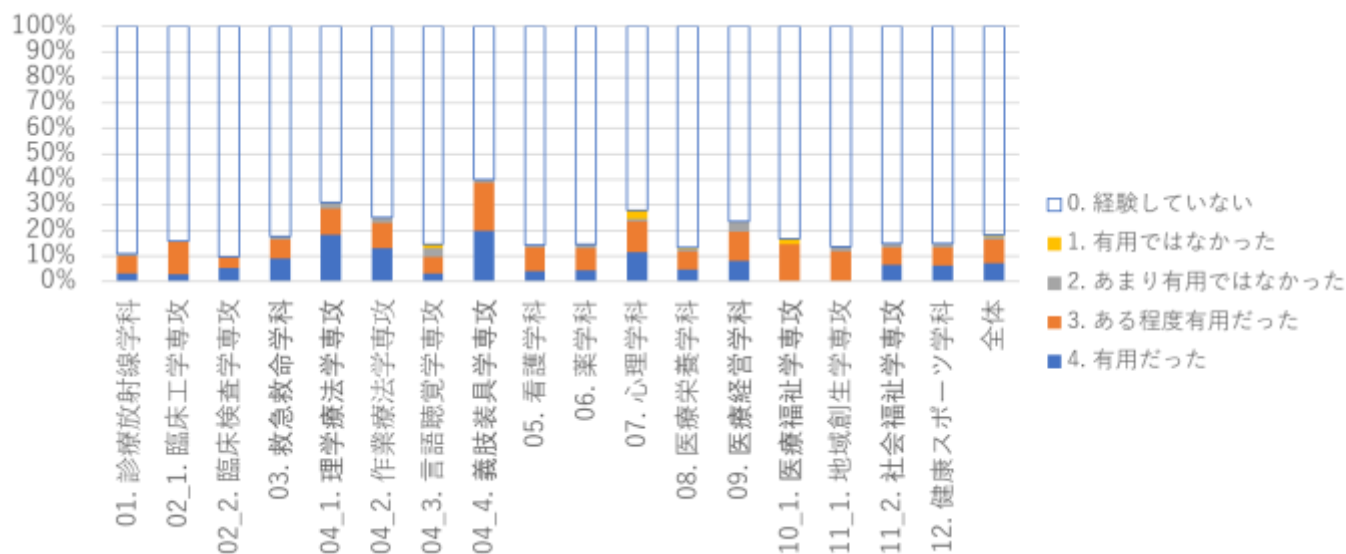


全国学生調査－2

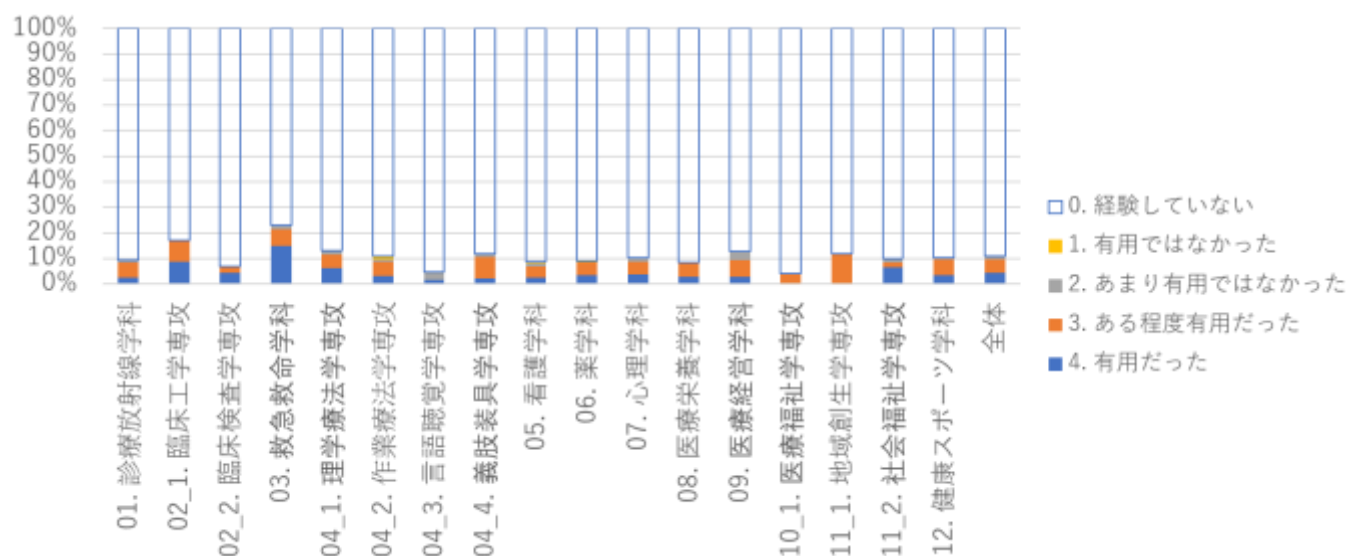
この設問は、大学在学中に経験した学修・教育活動について、その有用性を尋ねたものである。1（インターンシップ）は参加率が15%以上で、参加者の90%が肯定的な回答であった。2（海外留学・海外研修）は参加率が10%で、参加者の90%が肯定的な回答であった。3（英語を用いて実施する授業）は参加率が65%で、そのうち60%が肯定的な回答であった。インターンシップおよび海外留学・海外研修については、参加率は比較的低いものの、参加者の90%が肯定的に評価しており、これらの経験が学生にとって有用な学修機会となっていることがうかがえる。

各設問における回答を次に示す。

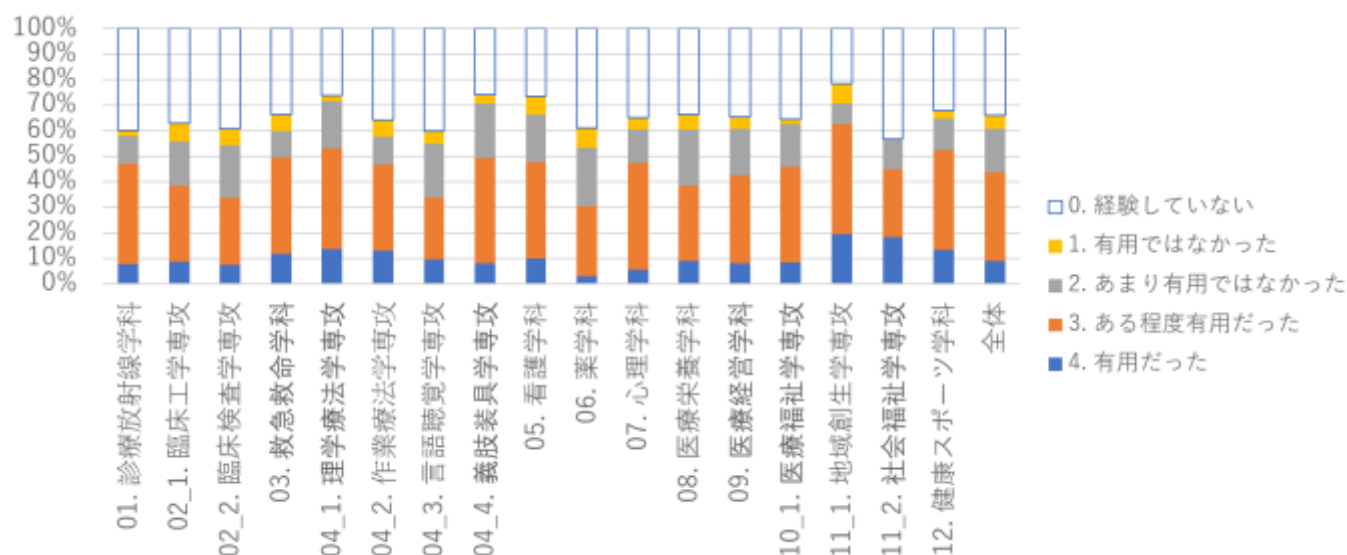
2-1 インターンシップ（5日間以上）



2-2 海外留学・海外研修（短期も含む）



2-3 主に英語で行われる授業の履修（語学科目を除く）

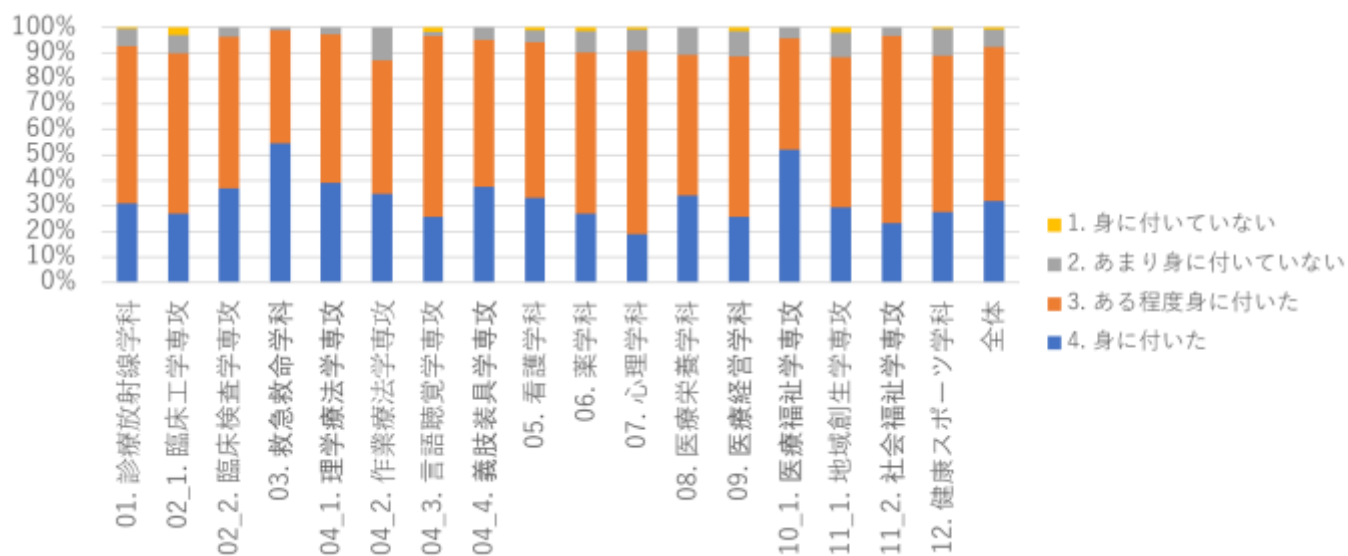


全国学生調査－3

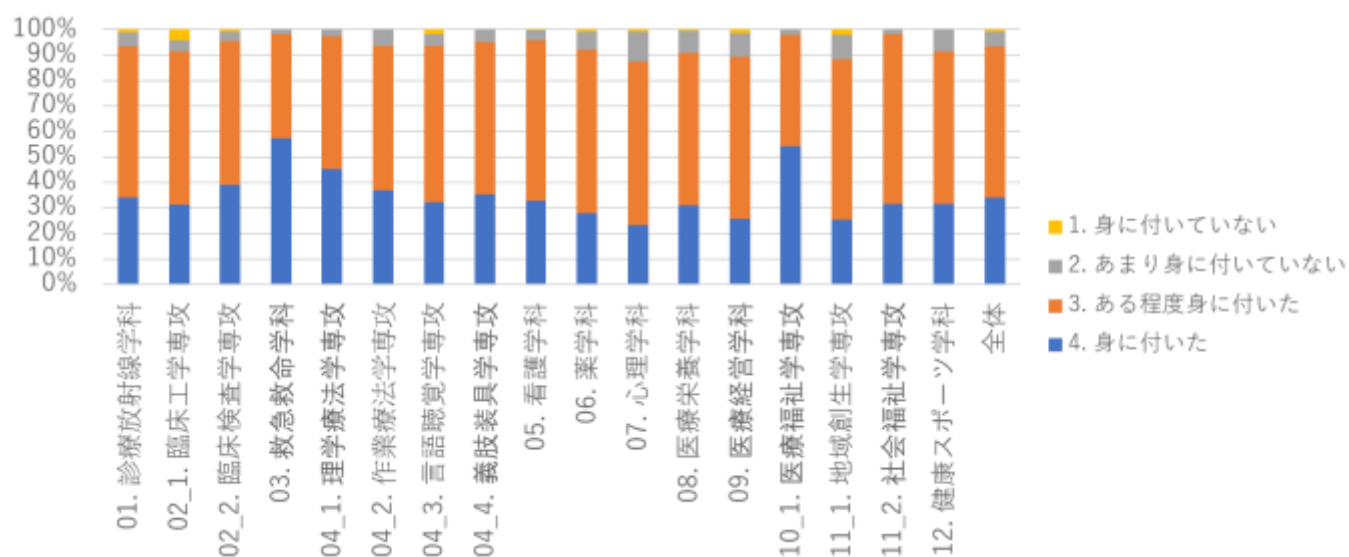
この設問は、大学教育を通じて身に付いた知識や能力、経験について尋ねたものである。各項目における肯定的な回答の割合をみると、1（専門分野）、2（将来につながるスキル・知識）、9（他者と協働する力）、10（幅広い知識、ものの見方）については、90%以上の学生が肯定的に回答していた。また、3（文献・資料の分析力）、5（わかりやすく話す力）、8（問題を見つけて解決方法を考える力）については、80%～90%の学生が肯定的に回答していた。なお、7（数理統計技能）および11（異なる文化に関する知識・理解）については、65%前後の学生が肯定的に回答していた。

各設問における回答を次に示す。

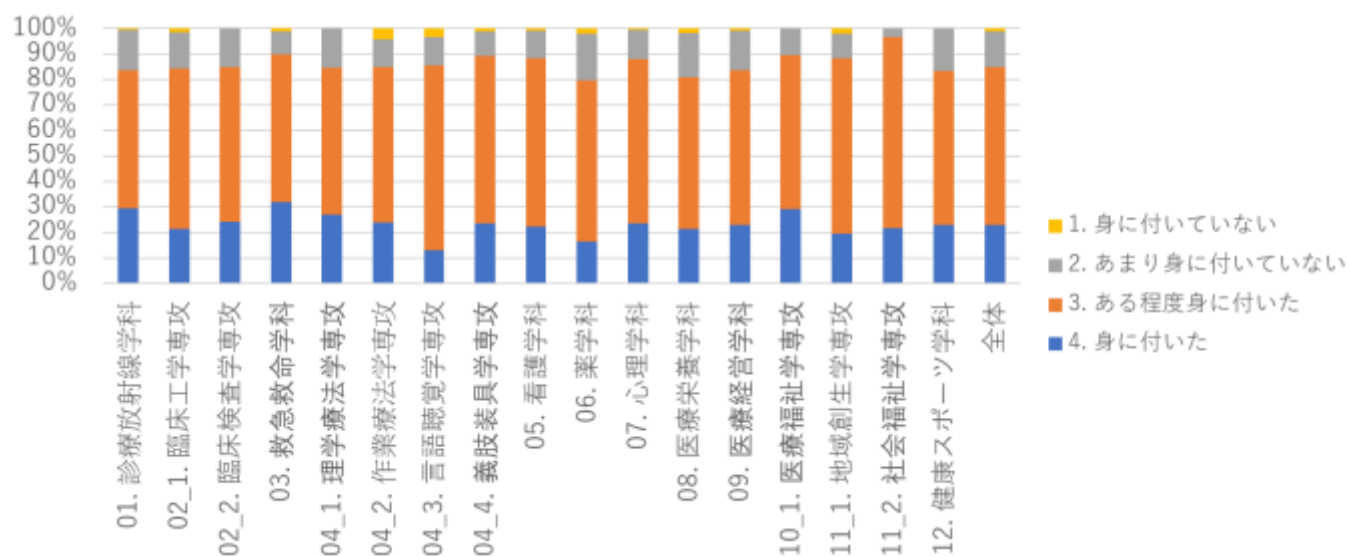
3-1 専門分野に関する知識・理解



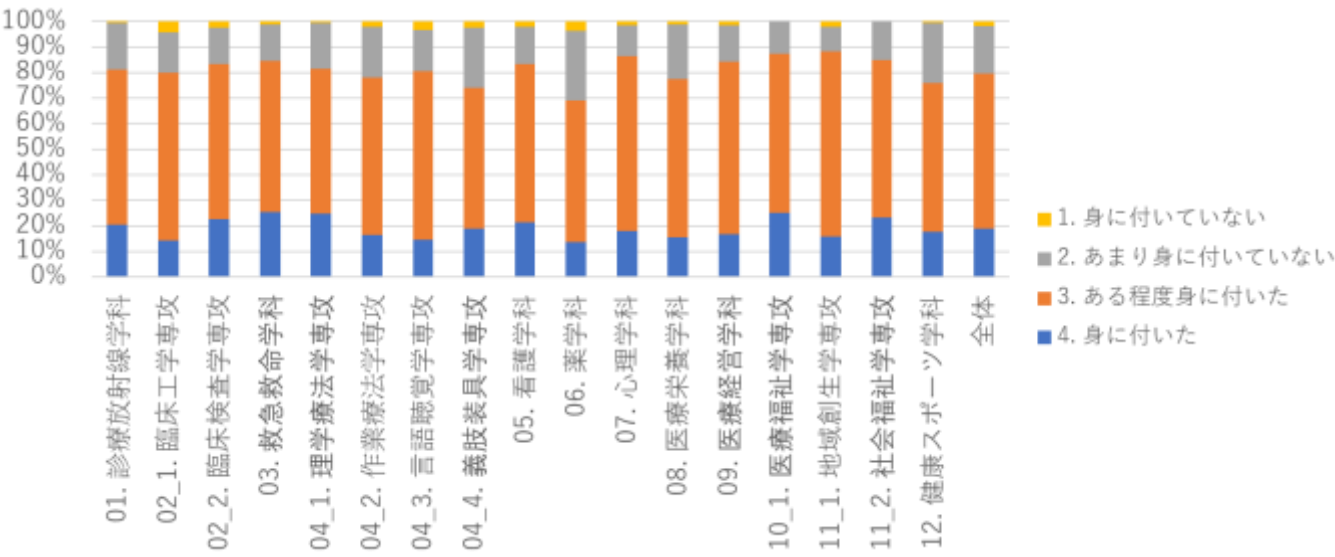
3-2 将来の仕事につながるような知識・スキル・態度・価値観



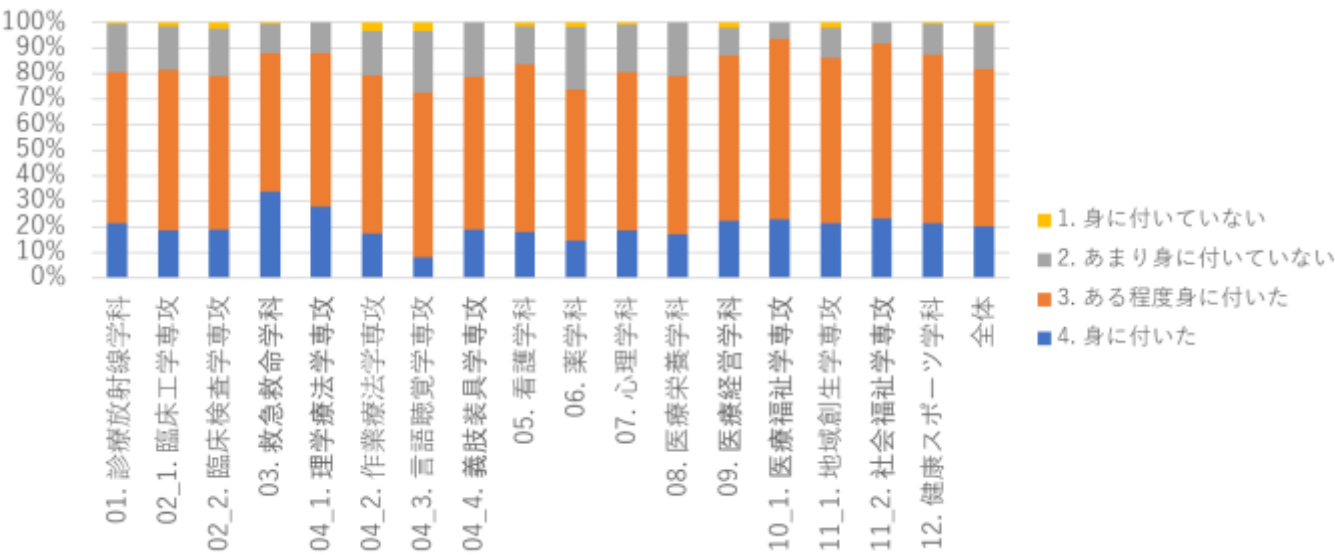
3-3 文献・資料を収集・分析する力



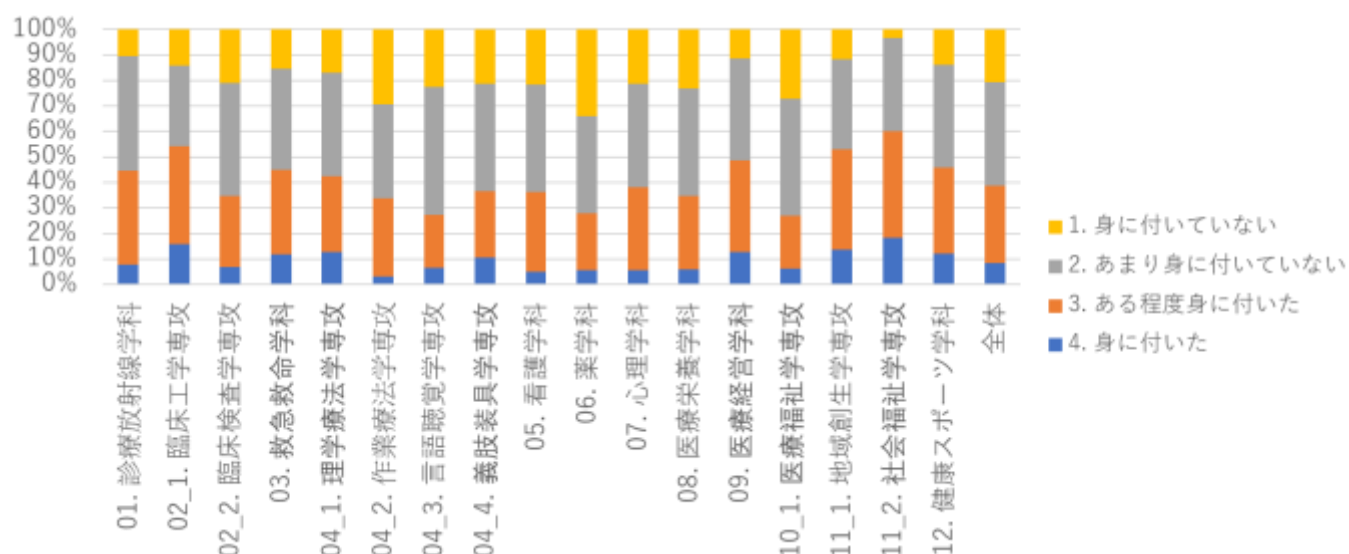
3-4 論理的に文章を書く力



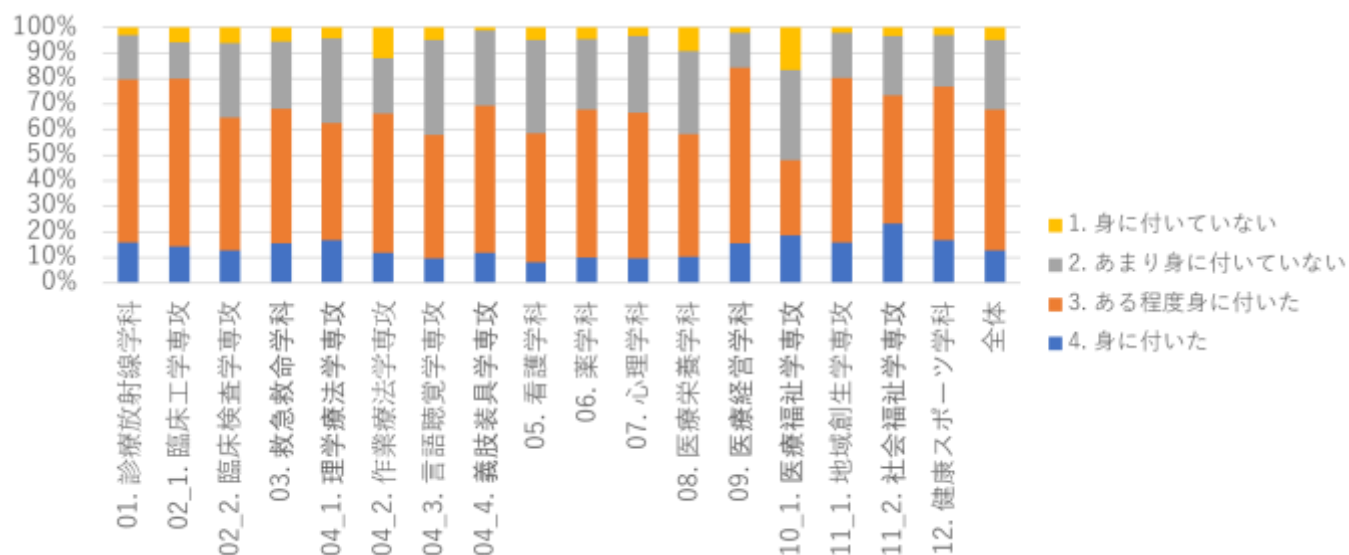
3-5 人に分かりやすく話す力



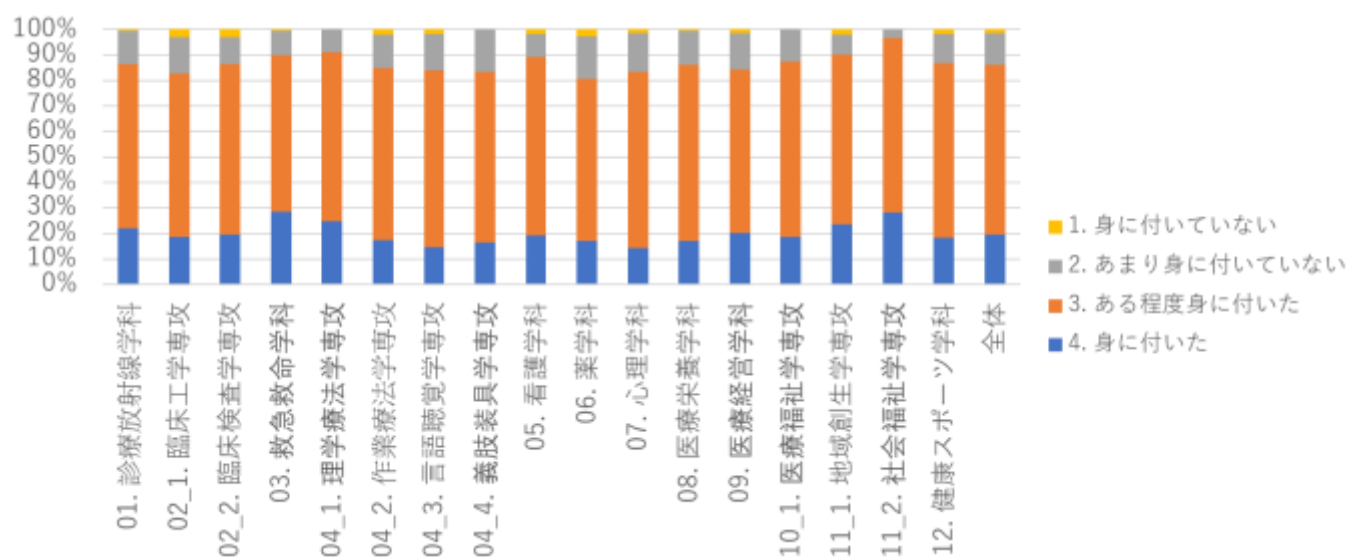
3-6 外国語を使う力



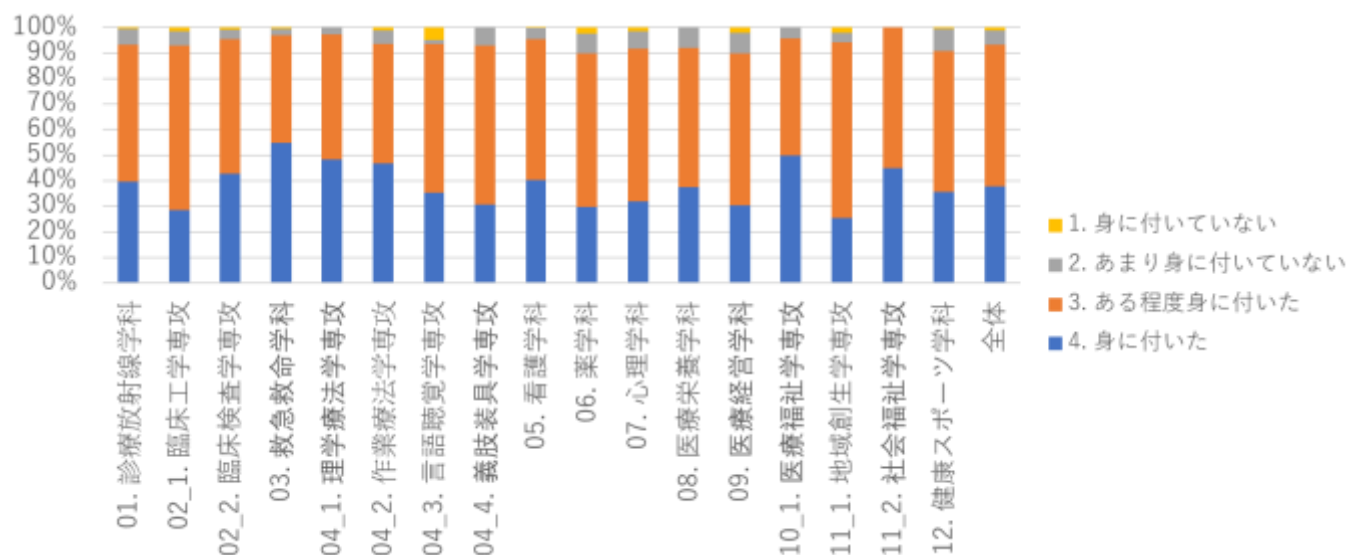
3-7 数理・統計・データサイエンスに関する知識・技能



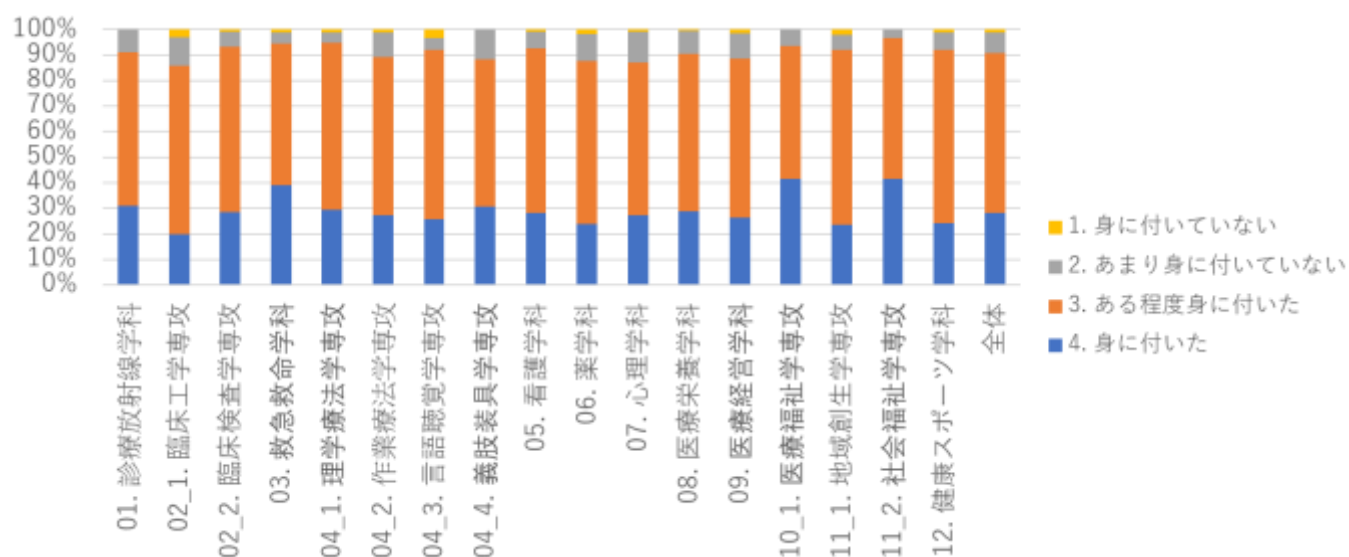
3-8 問題を見つけて解決方法を考える力



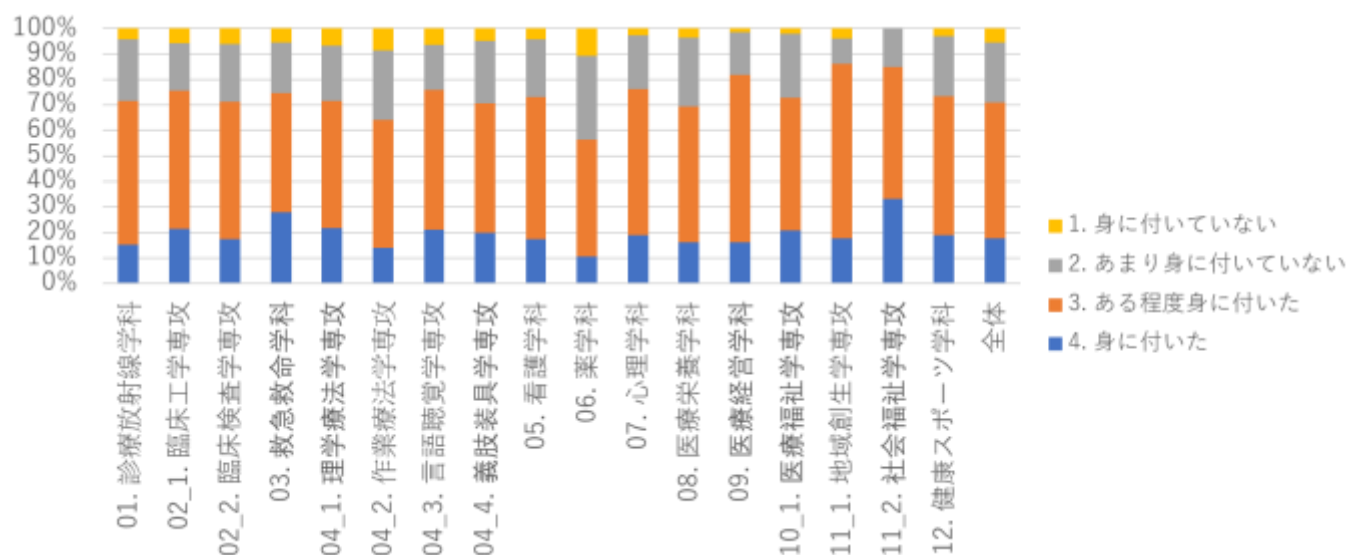
3-9 他者と協働する力



3-10 幅広い知識、ものの見方



3-11 異なる文化に関する知識・理解

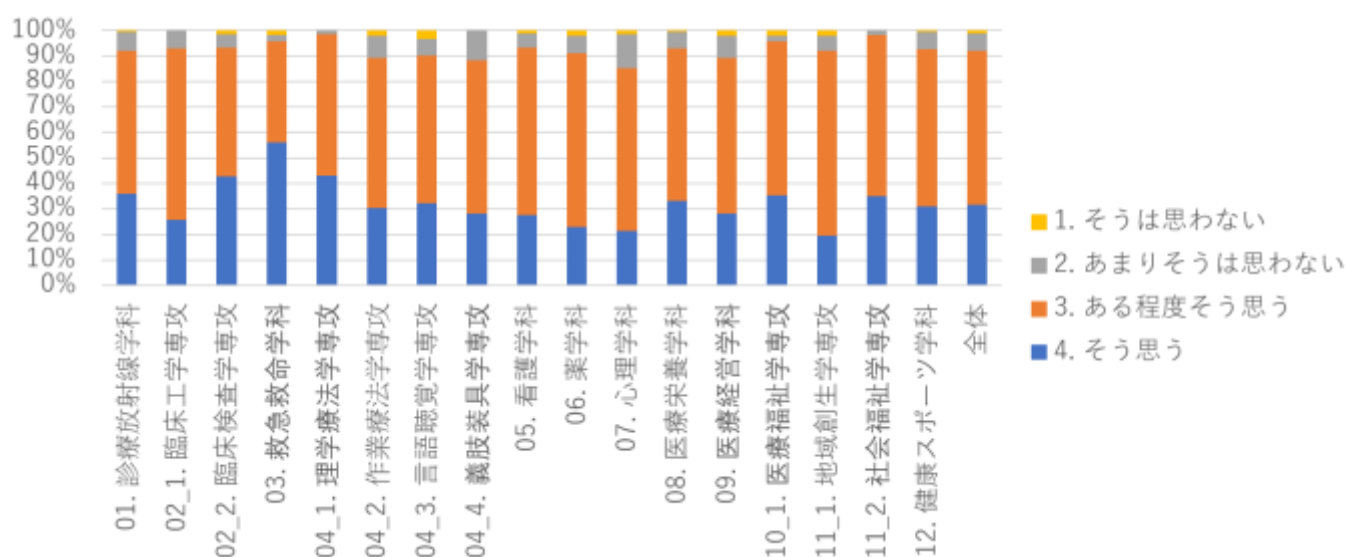


全国学生調査－4

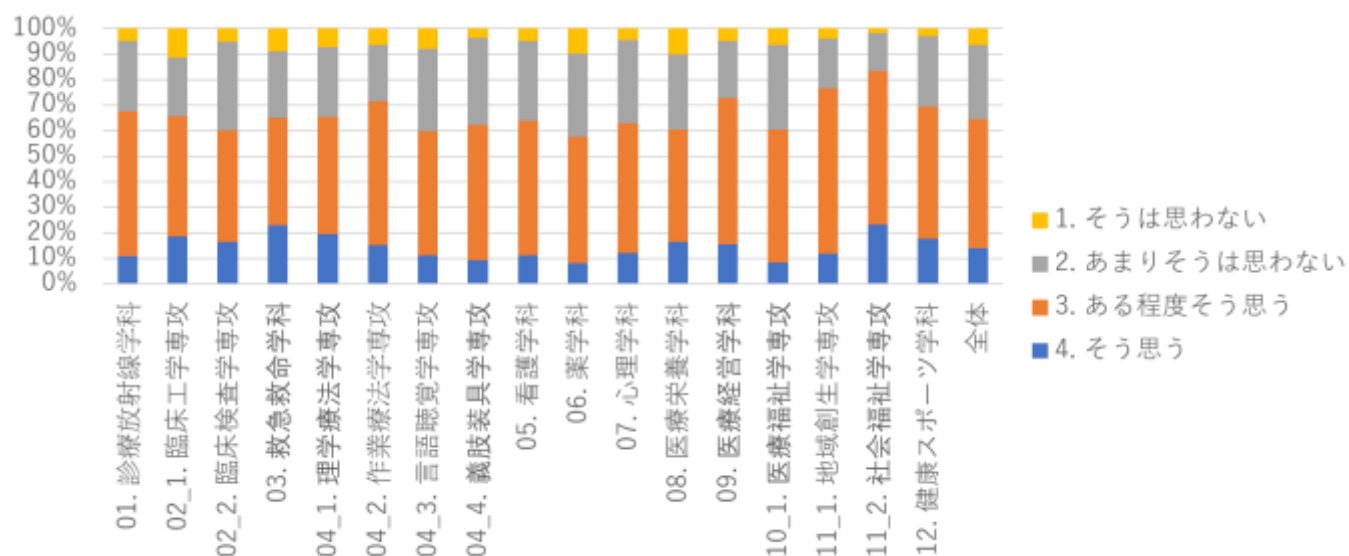
この設問は、大学での学び全体に対する学生の認識や評価について尋ねたものである。各項目における肯定的な回答の割合は、1（卒業時までに身に付けるべき知識・能力を意識して学修）が90%以上、2（学生の意見を通じて大学教育が改善されている）が65%、3（教職員が熱心に教育に取り組んでいる）が85%以上、4（大学の学びで成長を実感している）が90%以上であった。特に、卒業時までに身に付けるべき知識・能力を意識した学修や、大学での学びを通じた成長の実感については、90%以上の学生が肯定的に回答しており、学生が自身の学修の目的や成長を肯定的に捉えていることがうかがえる。

各設問における回答を次に示す。

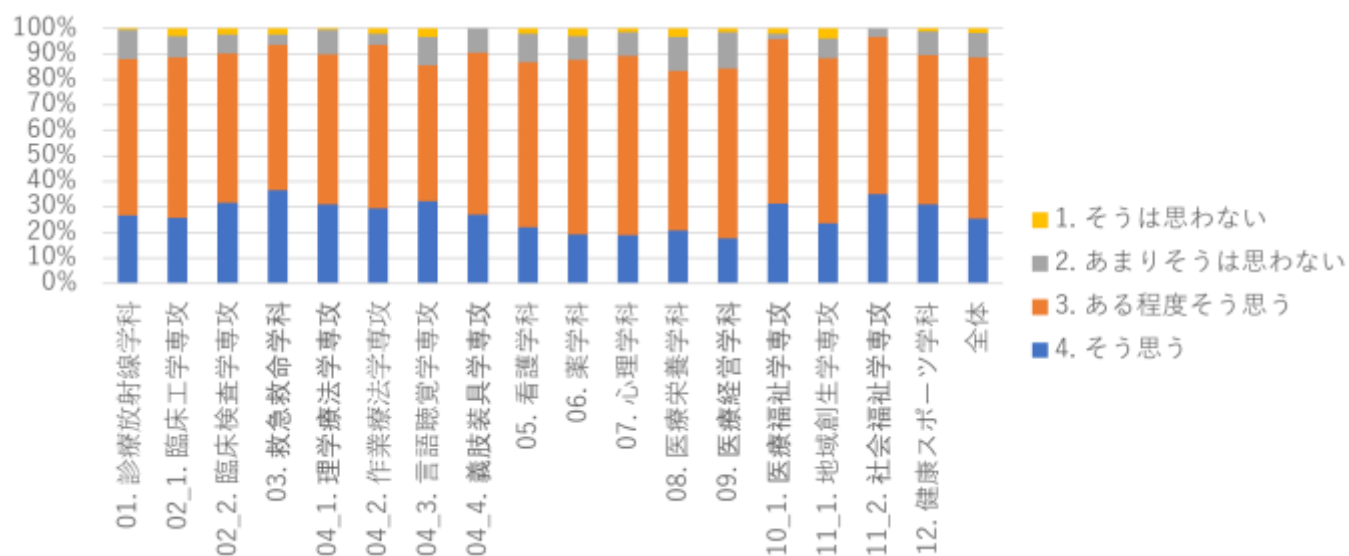
4-1 卒業時までに身に付けるべき知識や能力を意識して学修している。



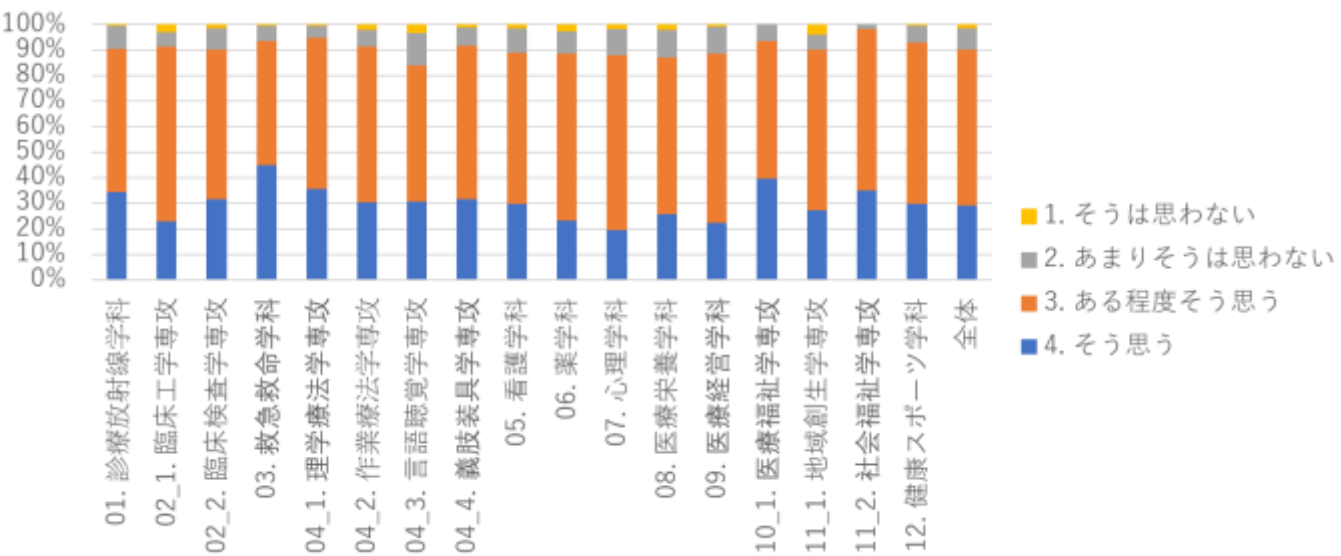
4-2 授業アンケート等の学生の意見を通じて大学教育が良くなっている。



4-3 教職員が熱心に教育に取り組んでいる。



4-4 大学の学びによって成長を実感している。

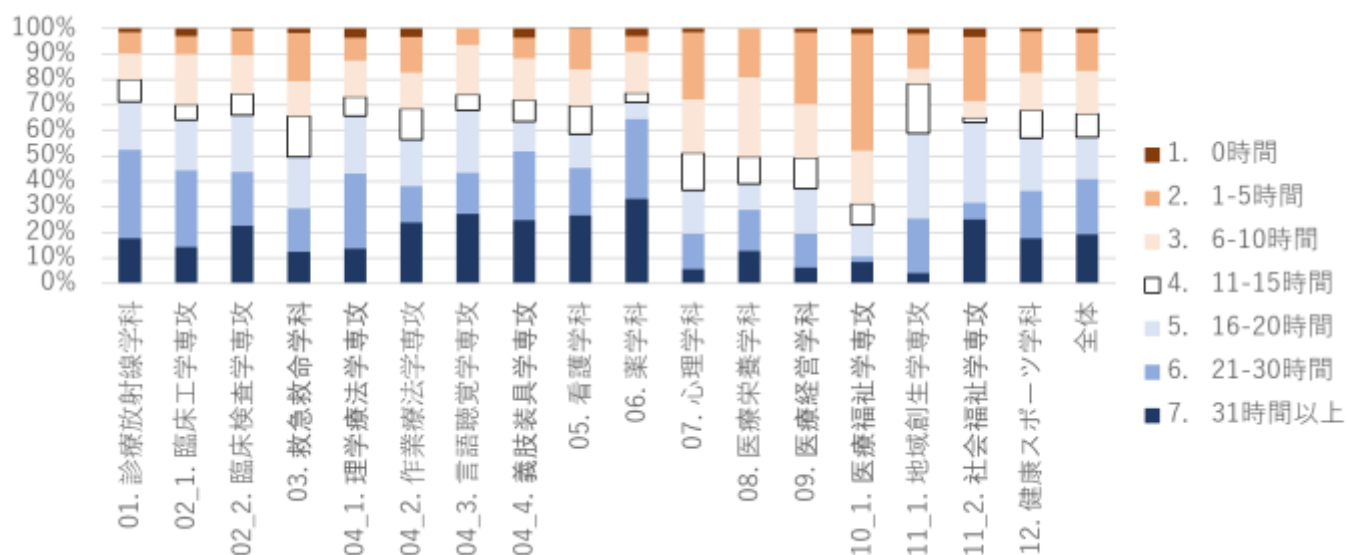


全国学生調査－5

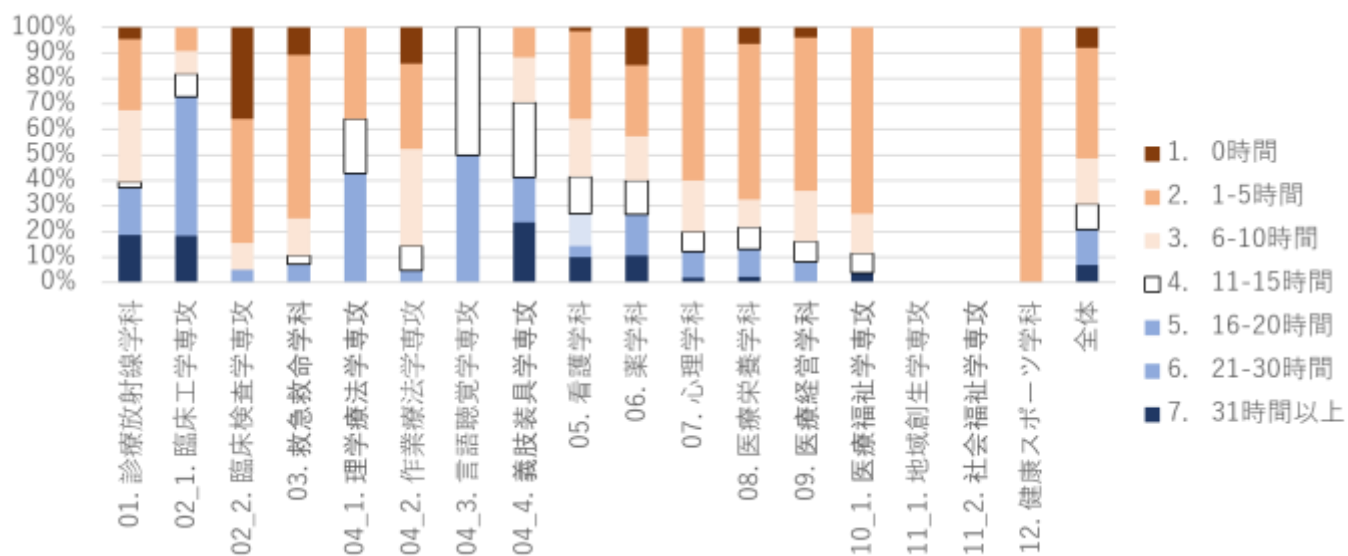
この設問は、授業期間中における学生の平均的な1週間の生活時間について尋ねたものである。1（授業への出席時間）については、65%の学生が週11時間以上と回答した。2（卒業研究等）については、該当年次の学生の50%が週6時間以上と回答した。また、3（予習・復習等）については50%以上、4（自主学修）については30%以上の学生が、それぞれ週6時間以上取り組んでいると回答した。5（課外活動）については、週6時間以上取り組んでいる学生が10%以上である一方、65%以上の学生がサークル活動には参加していないと回答した。6（アルバイト等）については、60%近くの学生が週6時間以上取り組んでいると回答した。以上から、学生の生活時間は授業への出席に加え、予習・復習や卒業研究等、アルバイトなどにも配分されていることがうかがえる。

各設問における回答を次に示す。

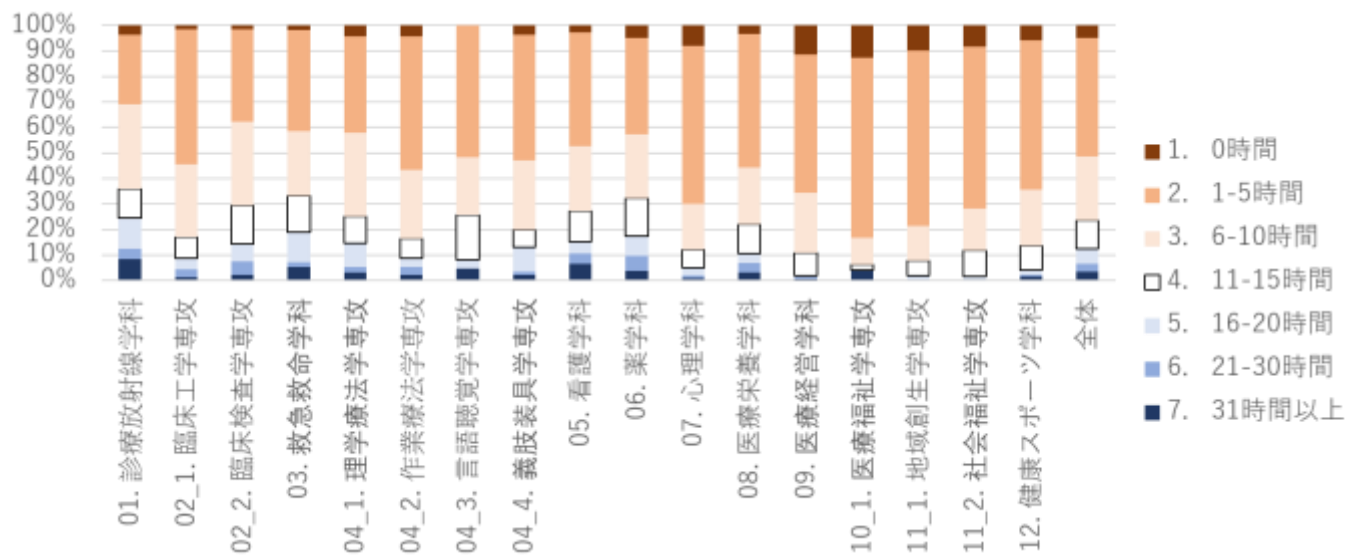
5-1 授業への出席（実験・実習、オンライン授業を含む）



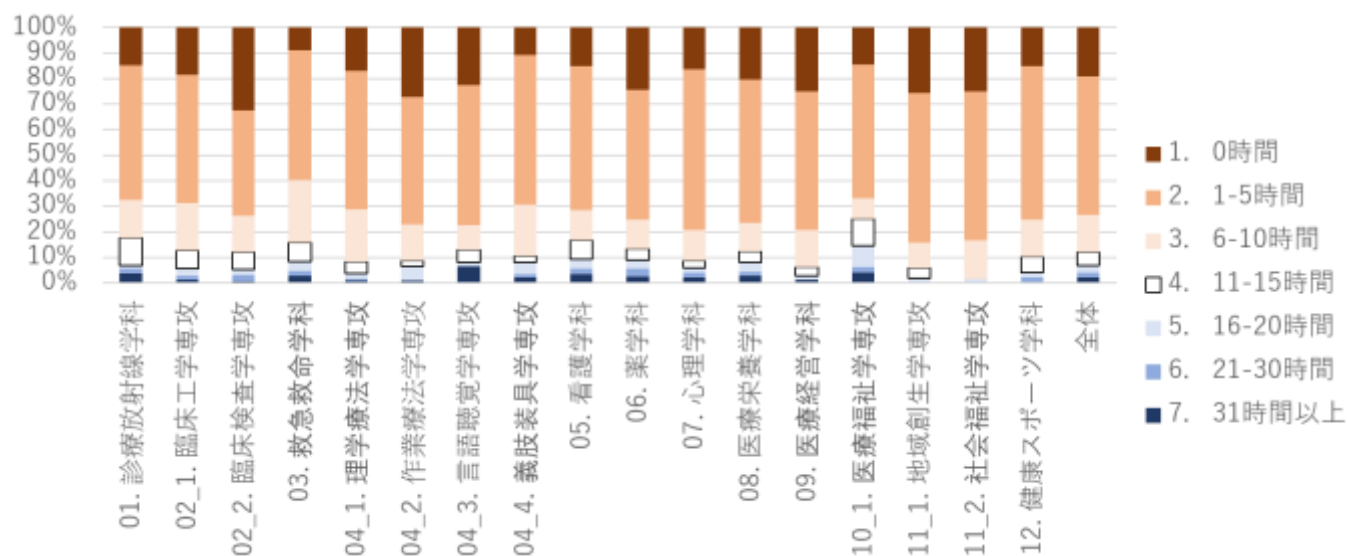
5-2 卒業論文・卒業研究・卒業制作（対象の学生のみ集計）



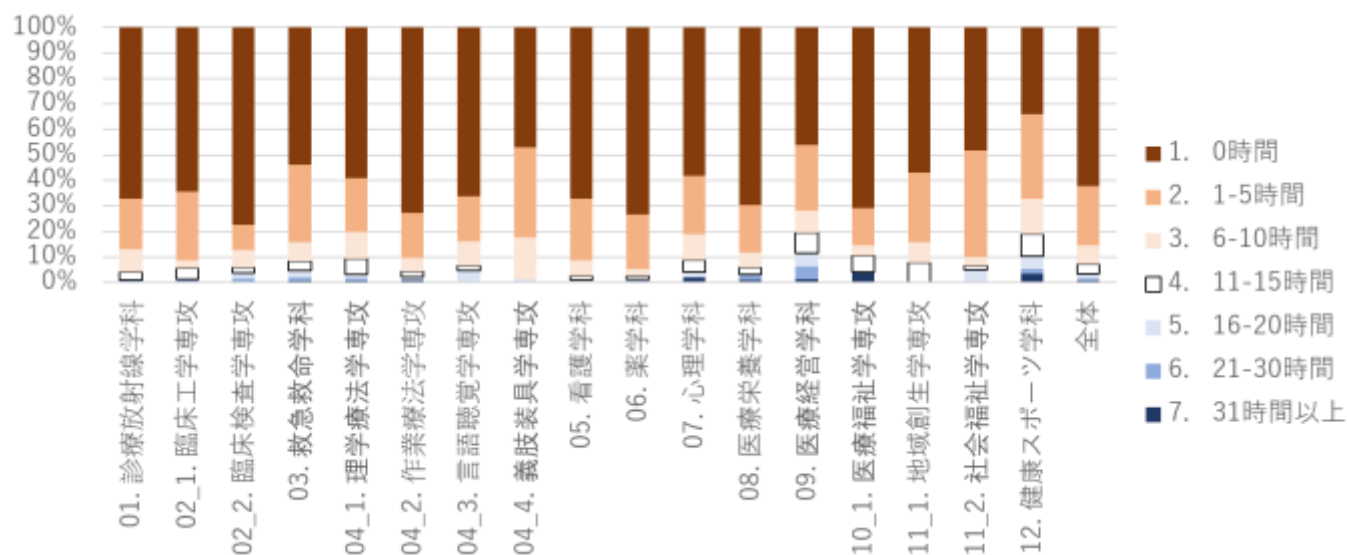
5-3 予習・復習・課題など授業に関する学習 (卒業論文等は除く)



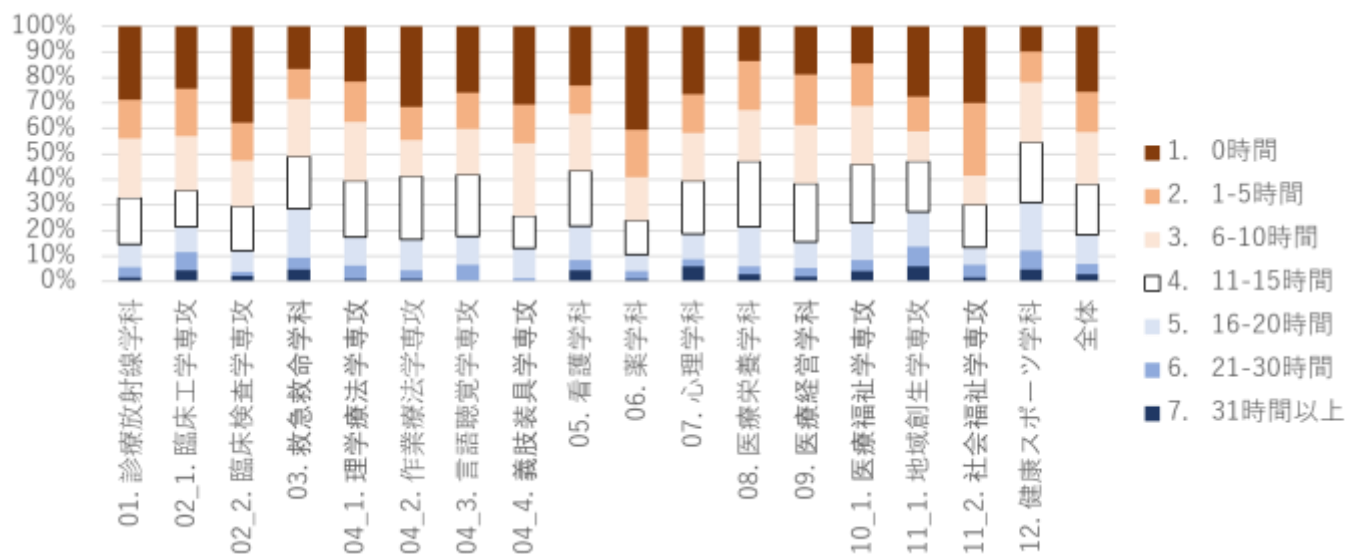
5-4 授業と直接関係しない自主的な学習



5-5 部活動／サークル活動



5-6 アルバイト／定職

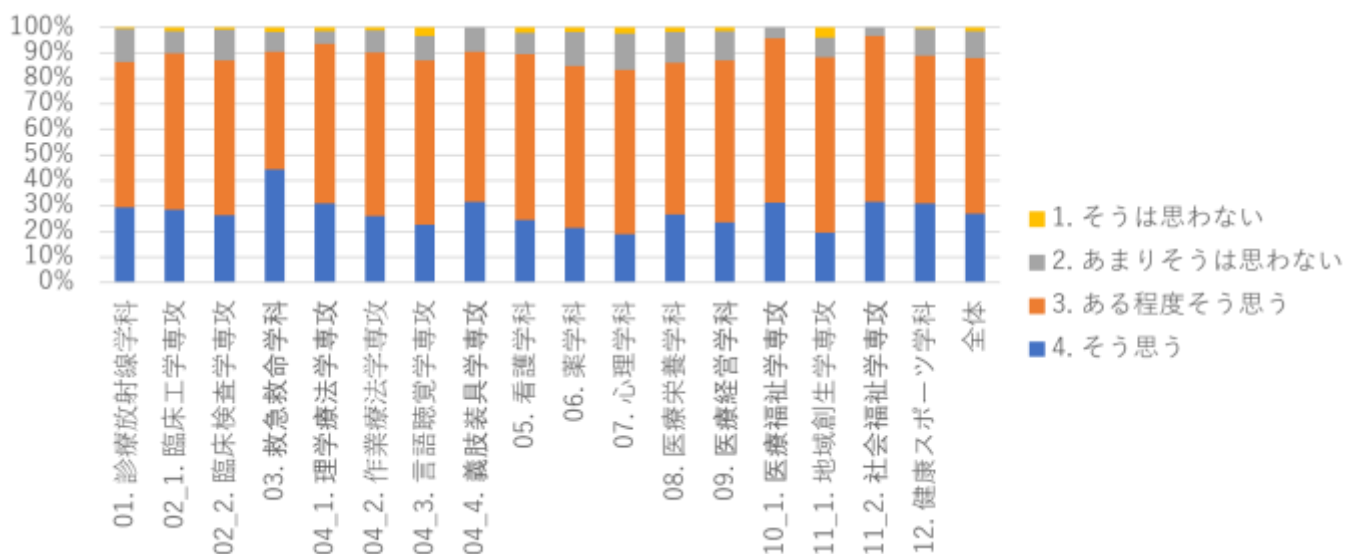


広国調査－1

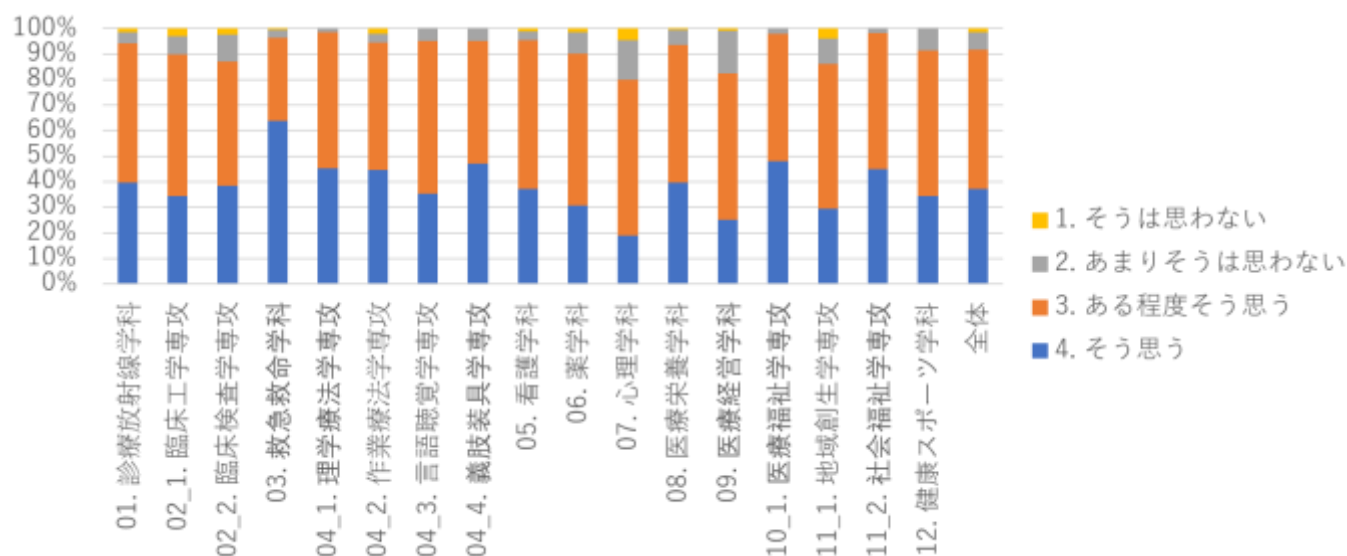
この設問は、広島国際大学が実施している教育政策について、学生の評価を尋ねたものである。各項目における肯定的な回答の割合は、1（学修の仕方）が85%、2（資格習得）が90%以上、3（実習・実験内容）が90%以上、4（授業構成）が90%、5（教員との信頼関係）が80%以上であった。特に、資格習得、実習・実験内容、授業構成については90%前後またはそれ以上の学生が肯定的に回答しており、大学の教育内容や教育環境について、学生から概ね高い評価を得ていることがうかがえる。また、学修の仕方および教員との信頼関係についても80%以上の肯定的な回答が得られており、全体として教育政策に対する評価は良好であると考えられる。

各設問における回答を次に示す。

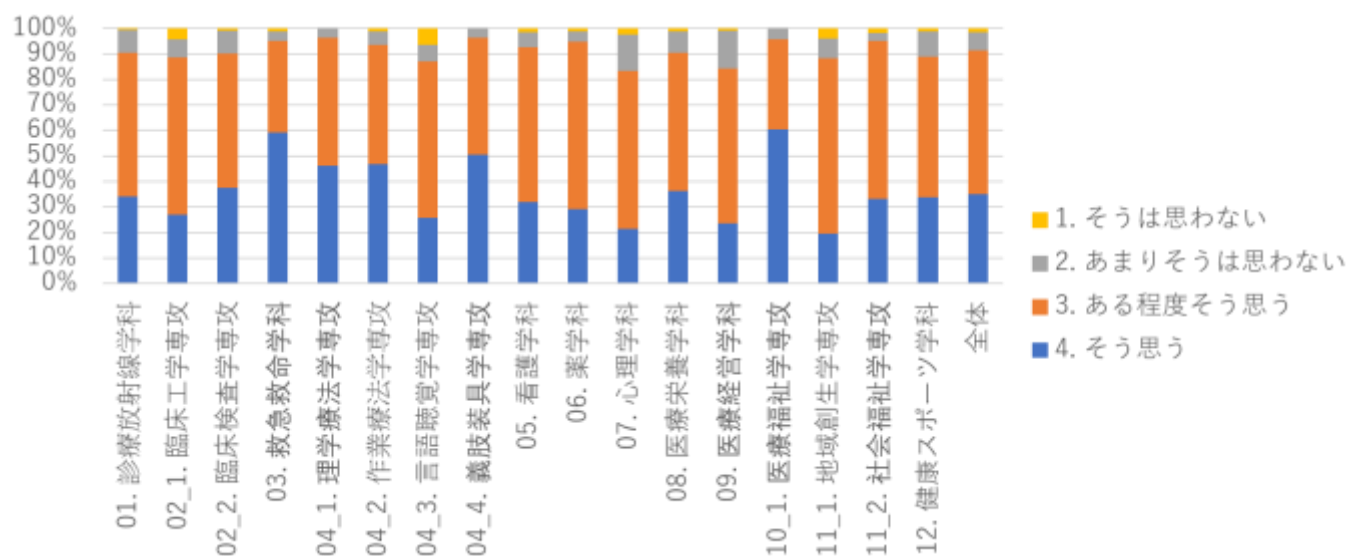
1-1 学修の仕方が身に付いている



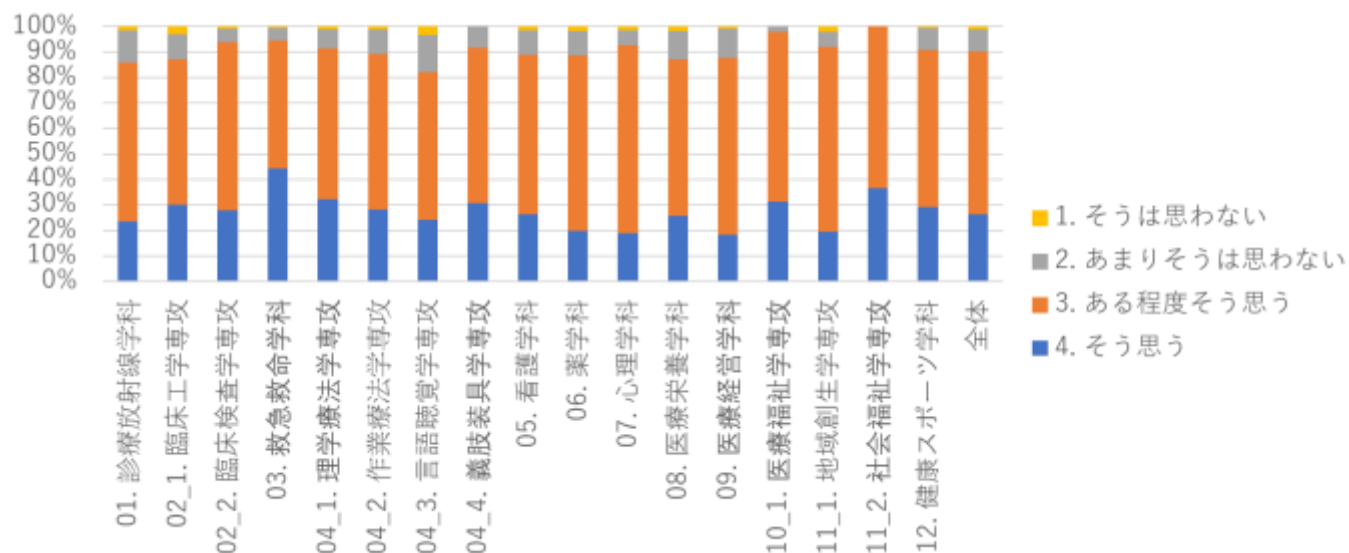
1-2 資格取得に役立つ勉強ができている



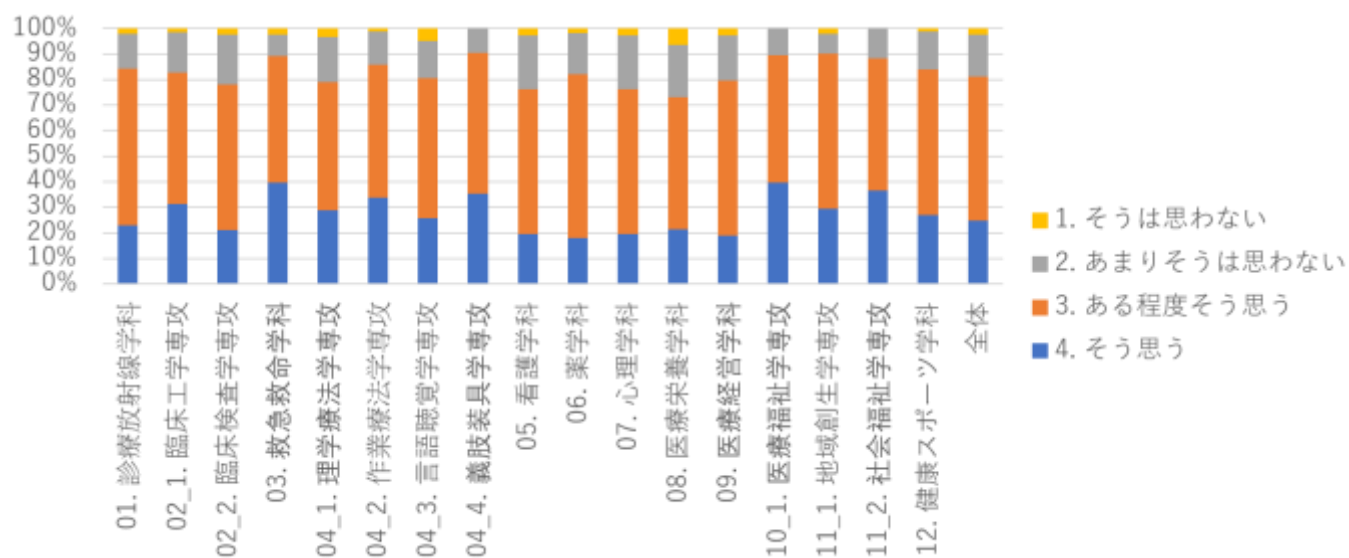
1-3 実習・実験内容が充実している



1-4 授業の順番や学ぶ内容の流れが、理解しやすく、学びやすいものになっている



1-5 教員との間に信頼関係がある

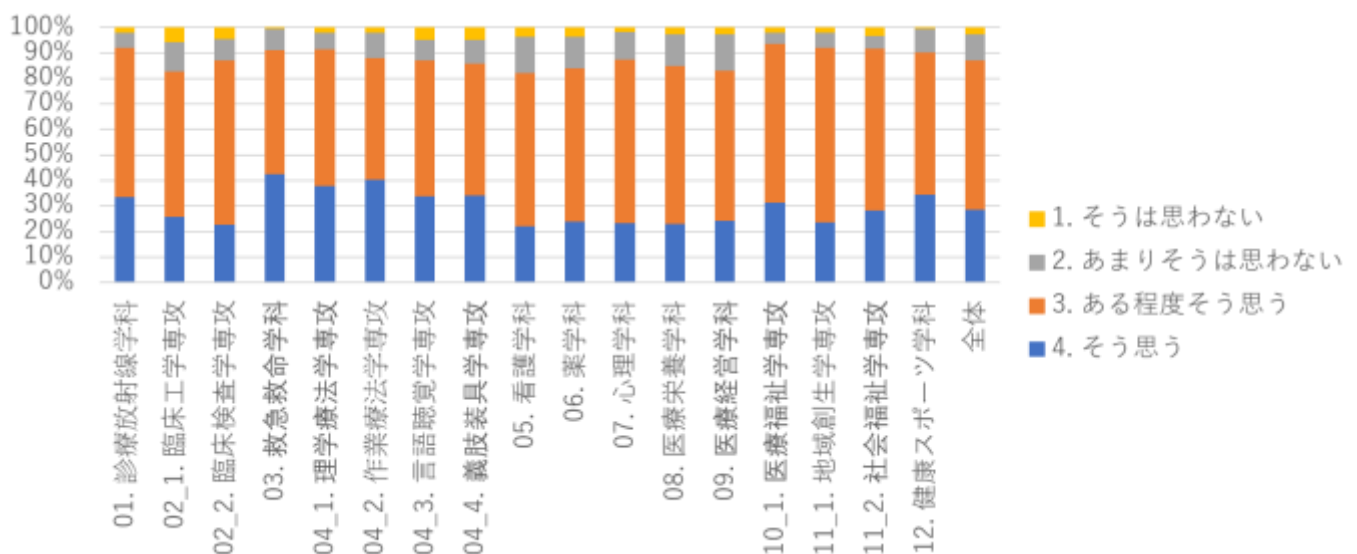


広国調査－2

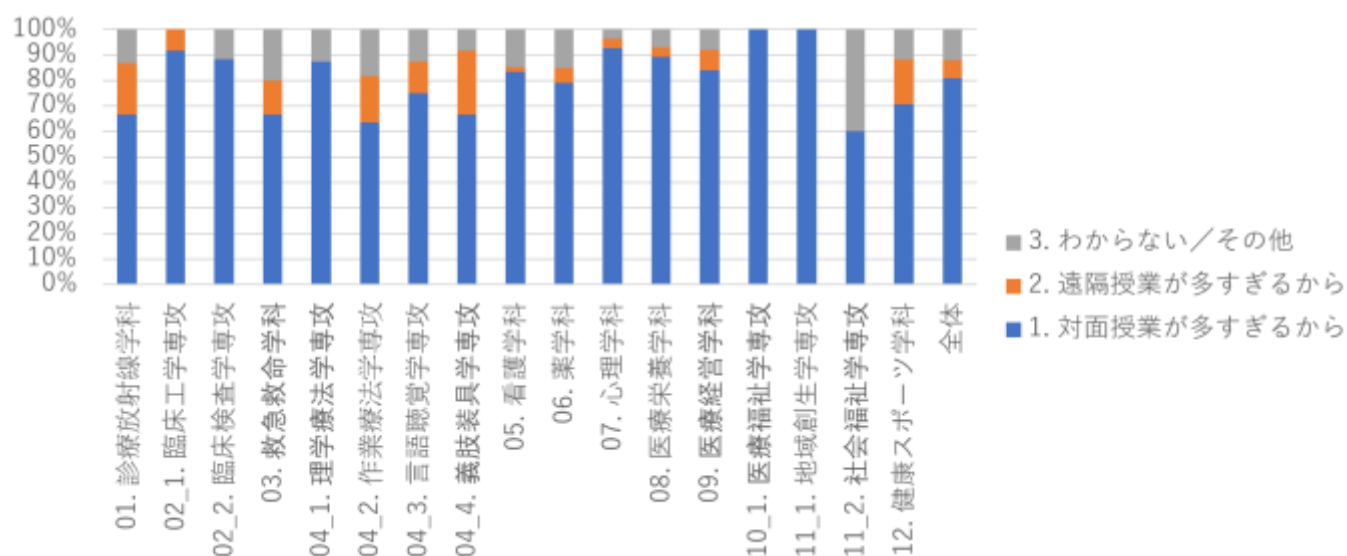
この設問は、広島国際大学における学修生活の環境や施設の利用状況、通学環境等について尋ねたものである。一部の施設では利用率に差がみられ、4（図書館）、5（食堂）、6（購買部）では10%以上、7（スポーツ施設）では50%以上の学生が利用していなかった。また、呉キャンパスに所属する学科・専攻（看護学科、薬学科、医療栄養学科、地域創生学専攻）では、通学環境について75%以上の学生が肯定的に回答しており、比較的高い評価が得られた。さらに、9（安心・安全な生活）については90%以上の学生が肯定的に回答しており、学生の多くが大学における安心・安全な生活環境を肯定的に評価していることがうかがえる。

各設問における回答を次に示す。

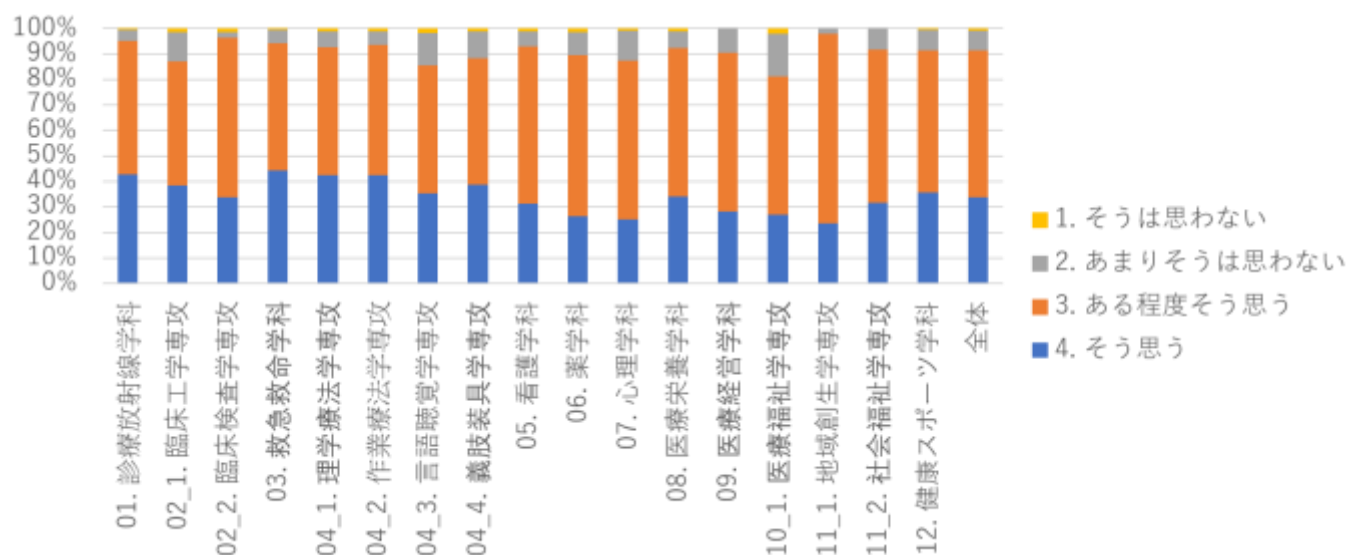
2-1 対面授業と遠隔授業（オンライン／オンデマンド）のバランス



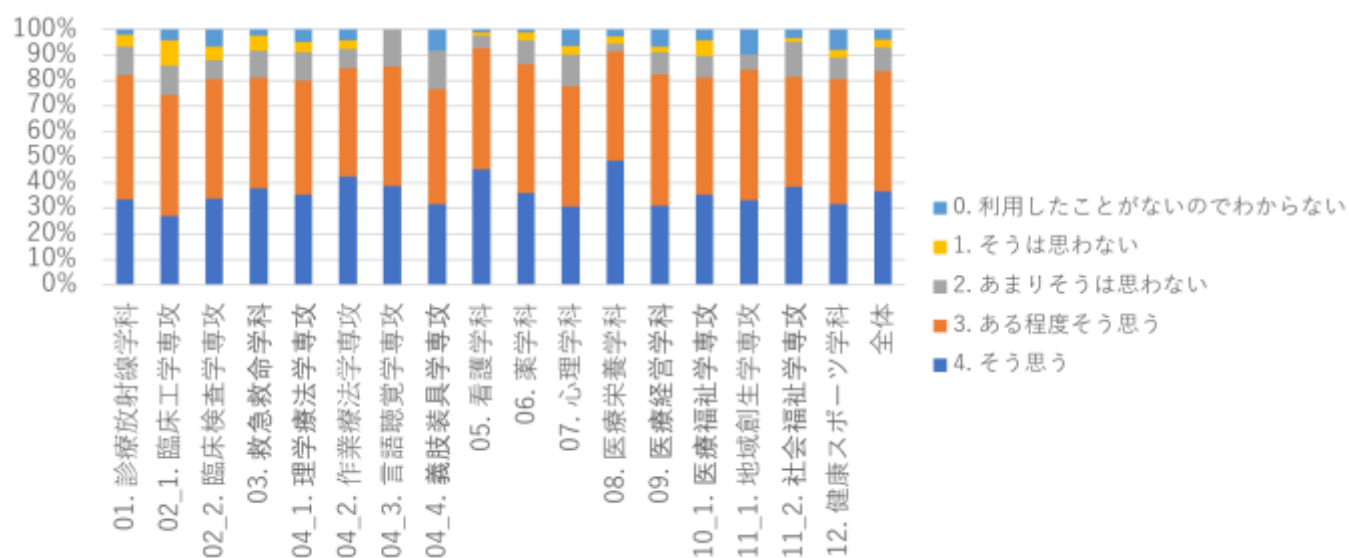
(追加) 遠隔授業のバランスにあまり満足していない学生、その理由は？



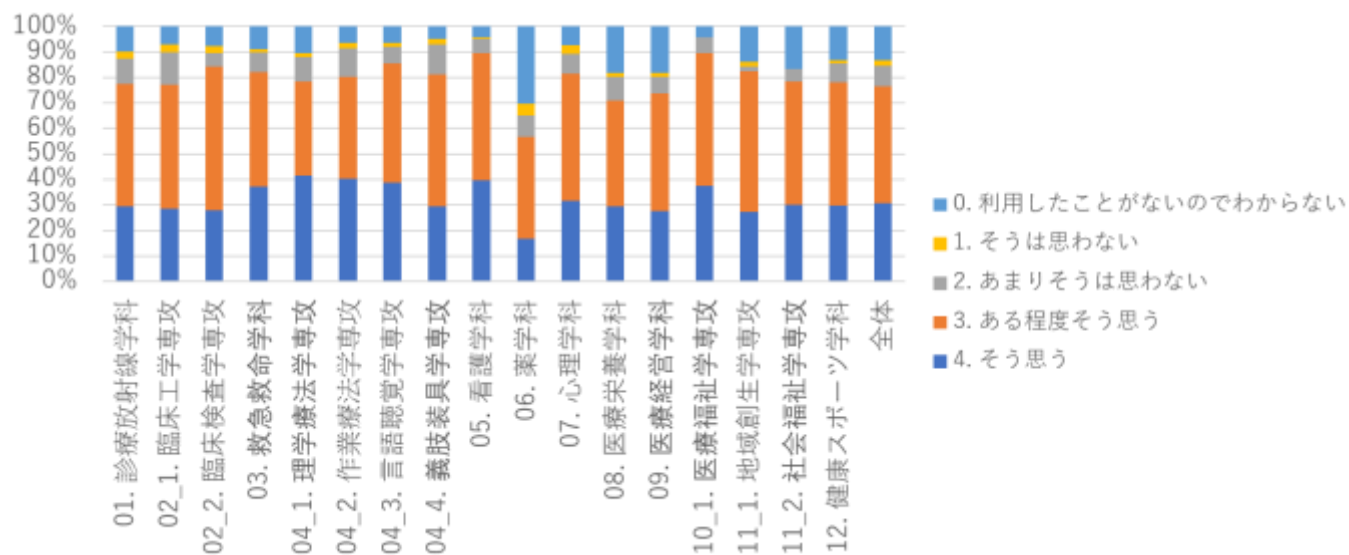
2-2 授業が行われている教室・演習室・実験室の設備は、十分に整っている



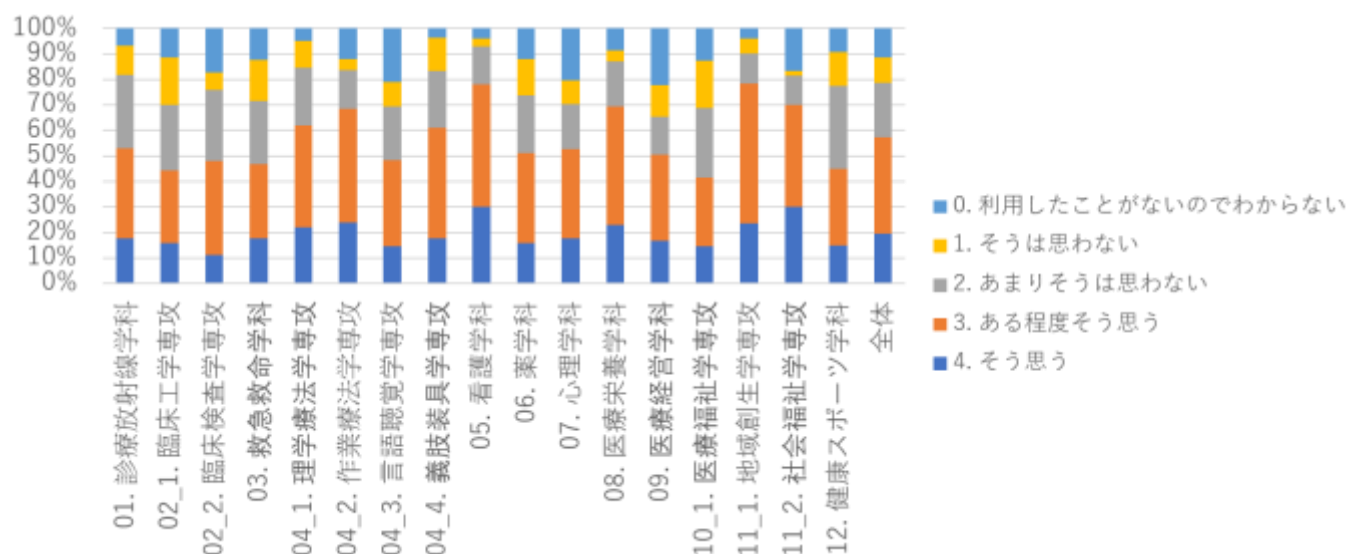
2-3 自習スペースは十分にあり、利用しやすい環境だ



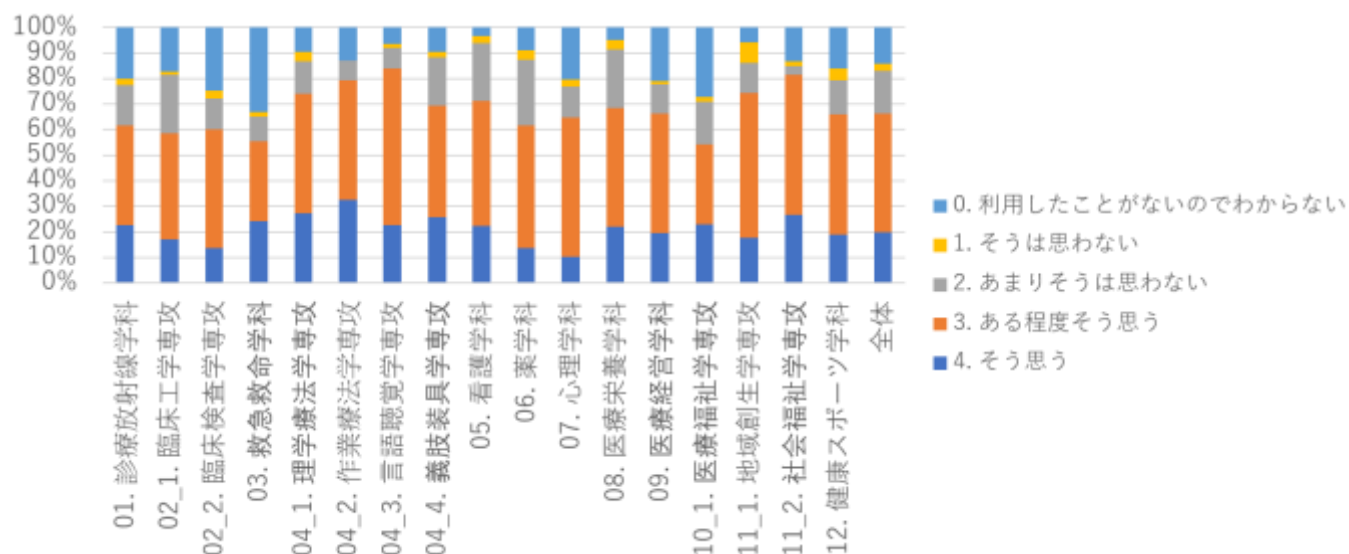
2-4 図書館の利用環境（館内設備、図書の貸出制度、開館時間など）



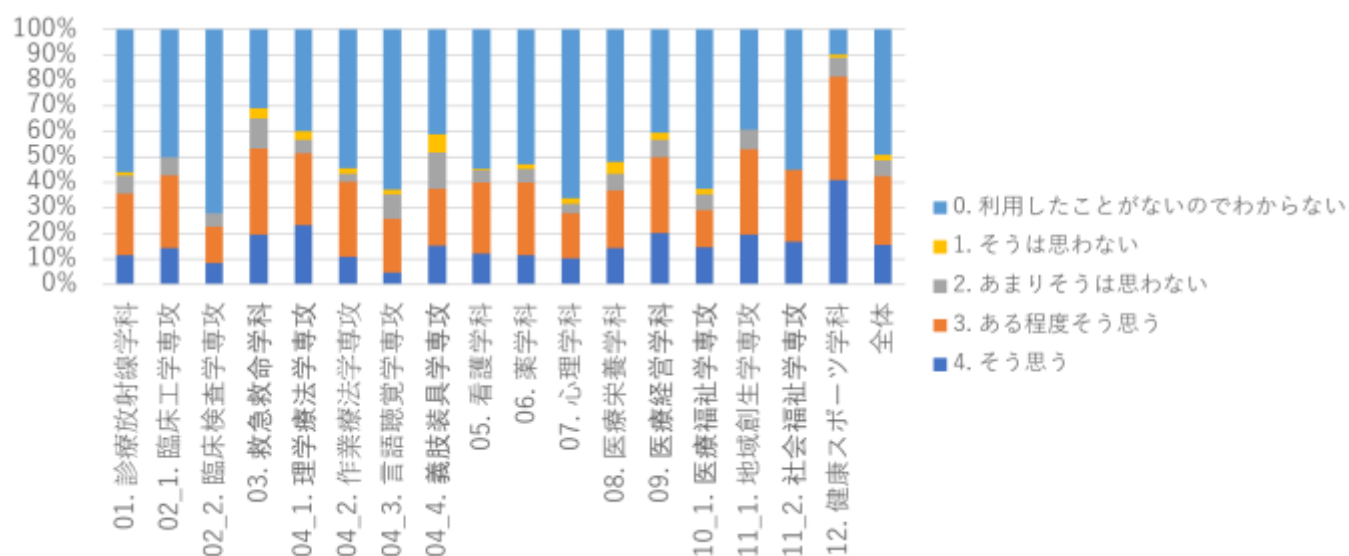
2-5 学内の食堂のメニューの種類、味、価格設定、営業時間



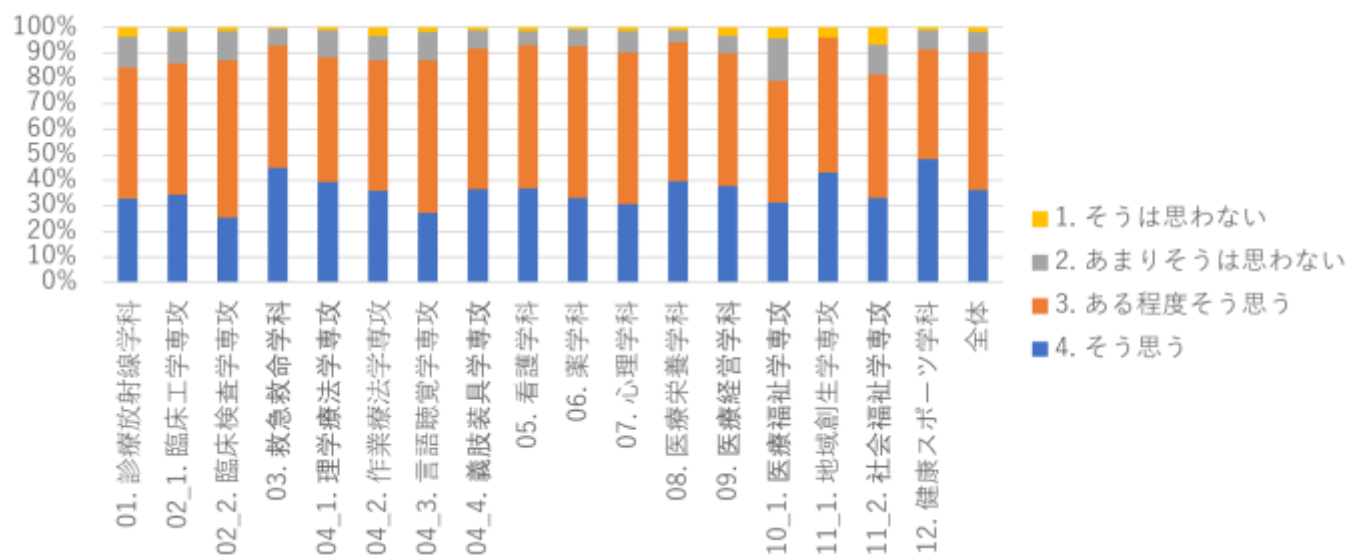
2-6 学内の購買部の品揃え（食品、文房具、日用品など）



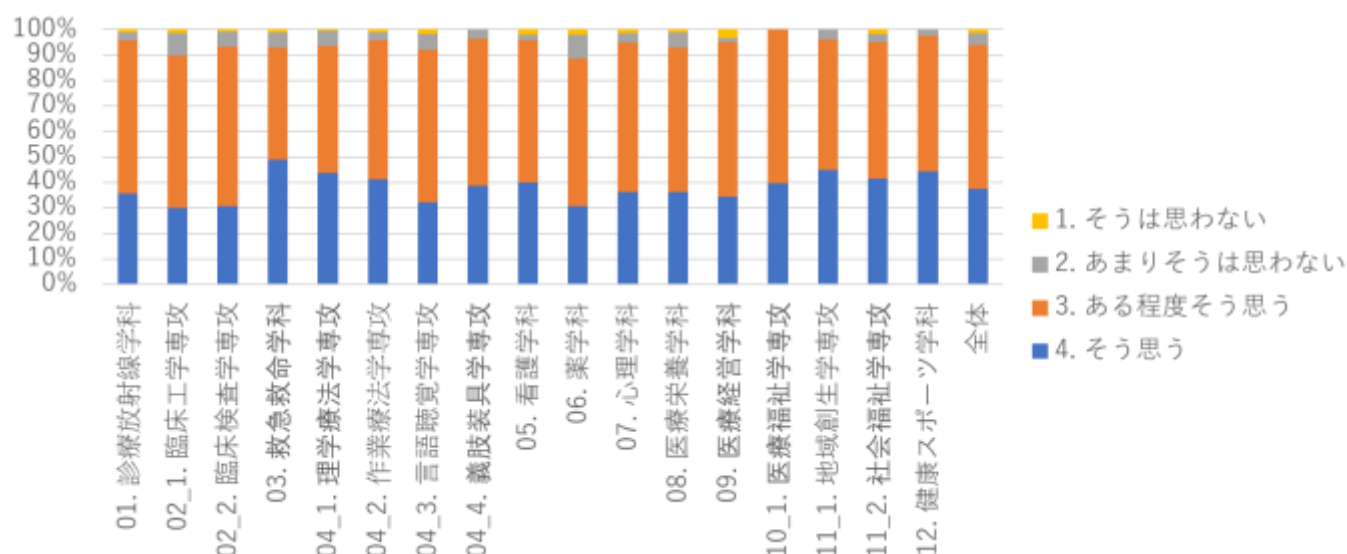
2-7 大学のスポーツ施設の利用しやすさ（予約方法・空き状況など）



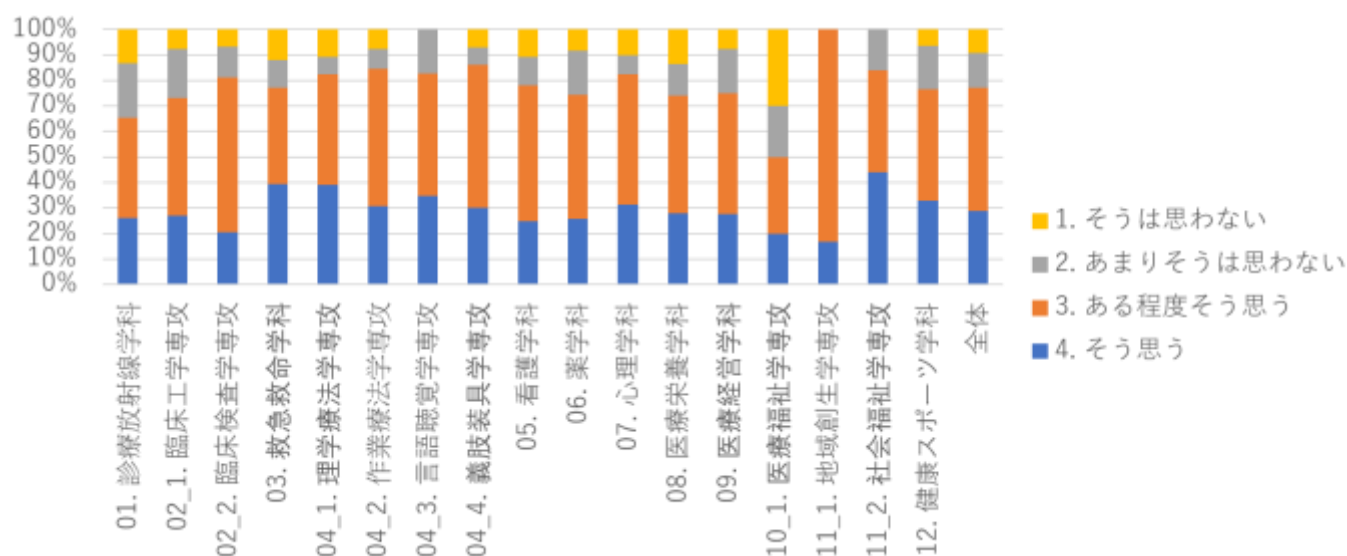
2-8 キャンパス内の施設（教室、体育館、トイレなど）の清潔さと使いやすさ



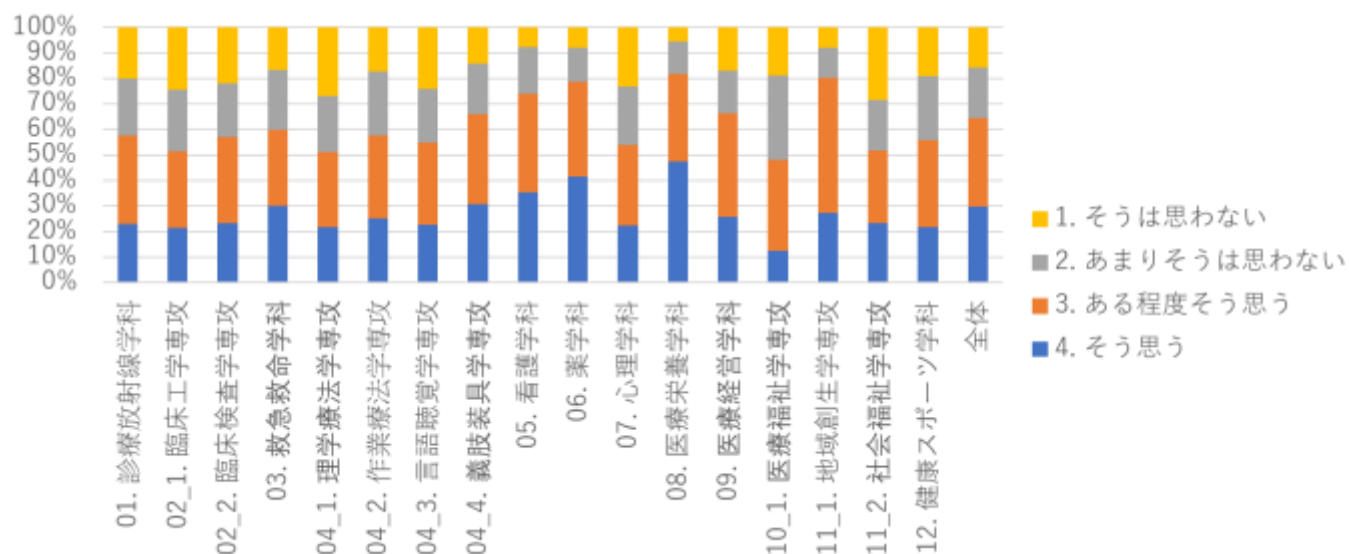
2-9 キャンパスでの生活が、安全かつ安心して送れている



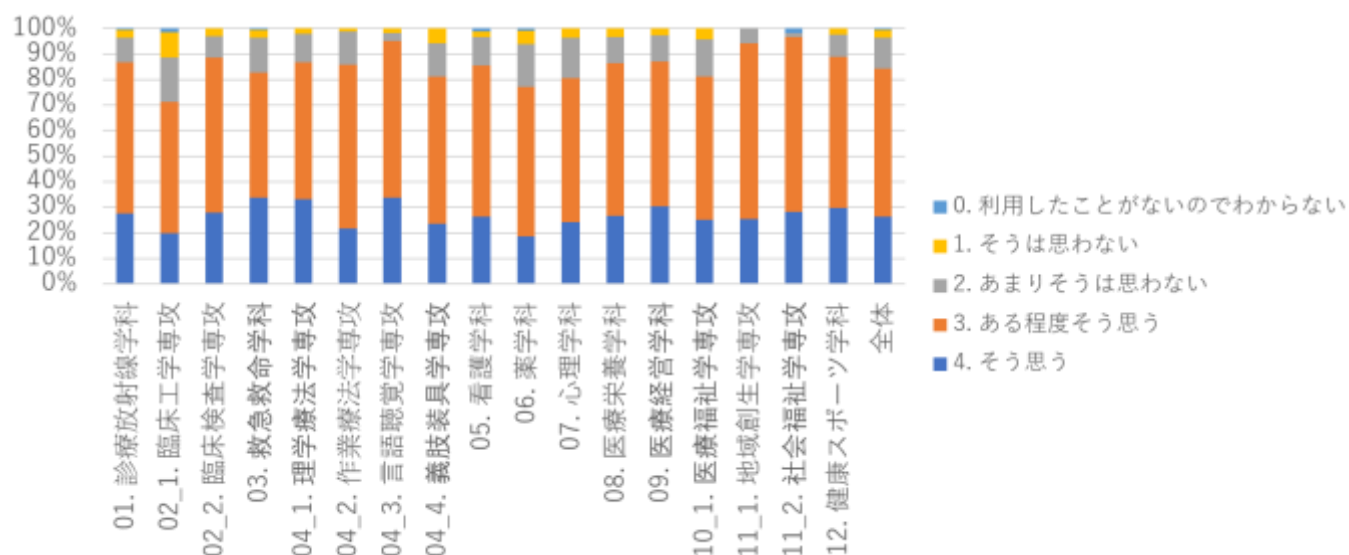
2-10 学生寮は充実している（学生寮利用者のみで集計）



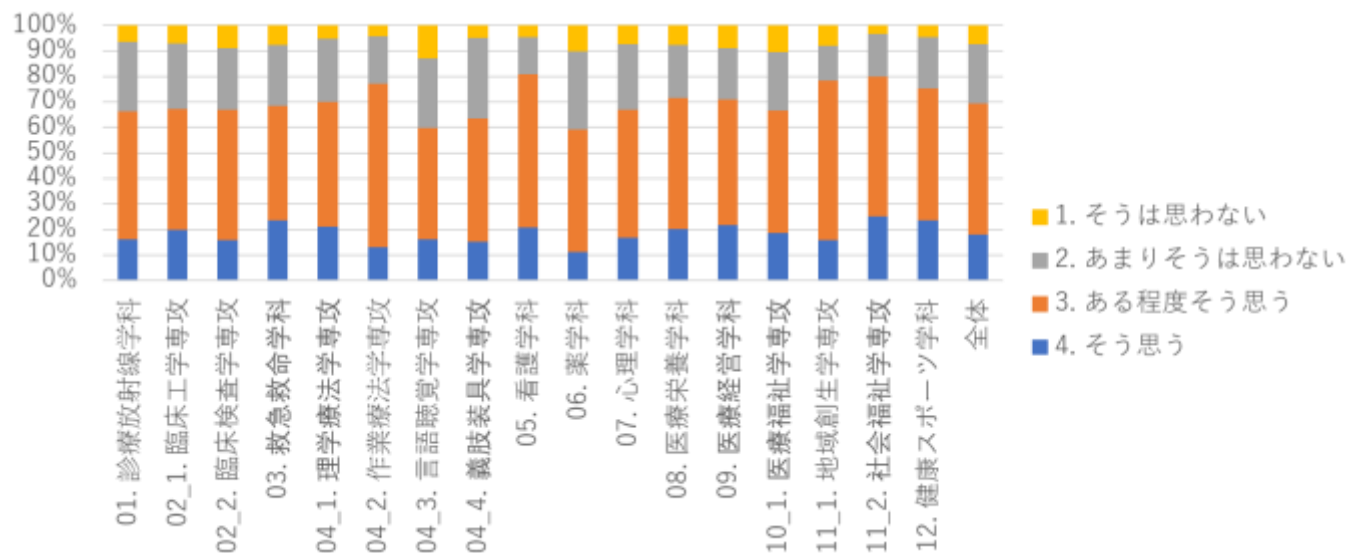
2-11 大学までの通学の便（交通手段や所要時間）



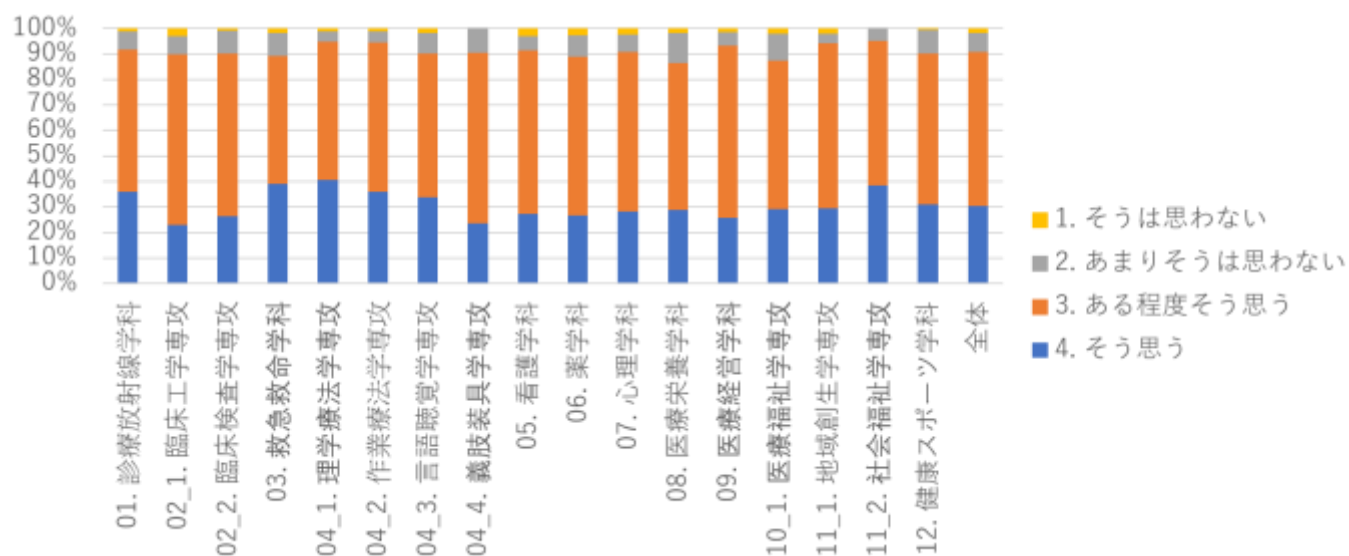
2-12 ポータルサイトは有効に活用できている



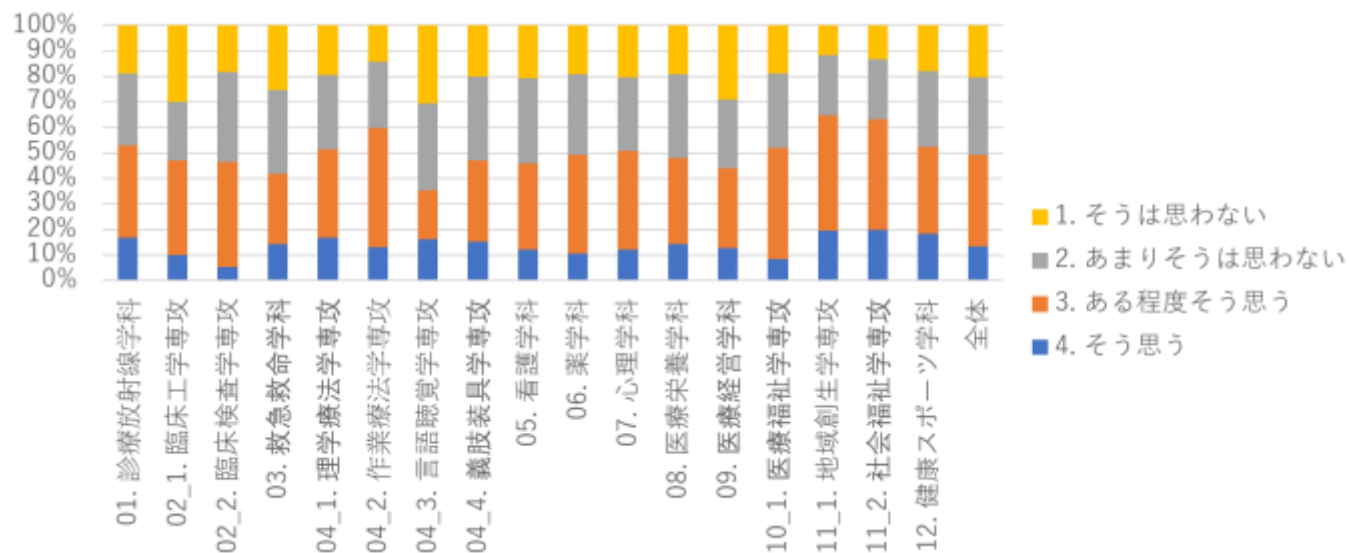
2-13 アセスメンターを活用することで、教員とのコミュニケーションが円滑になり、自身の振り返りに役立っている



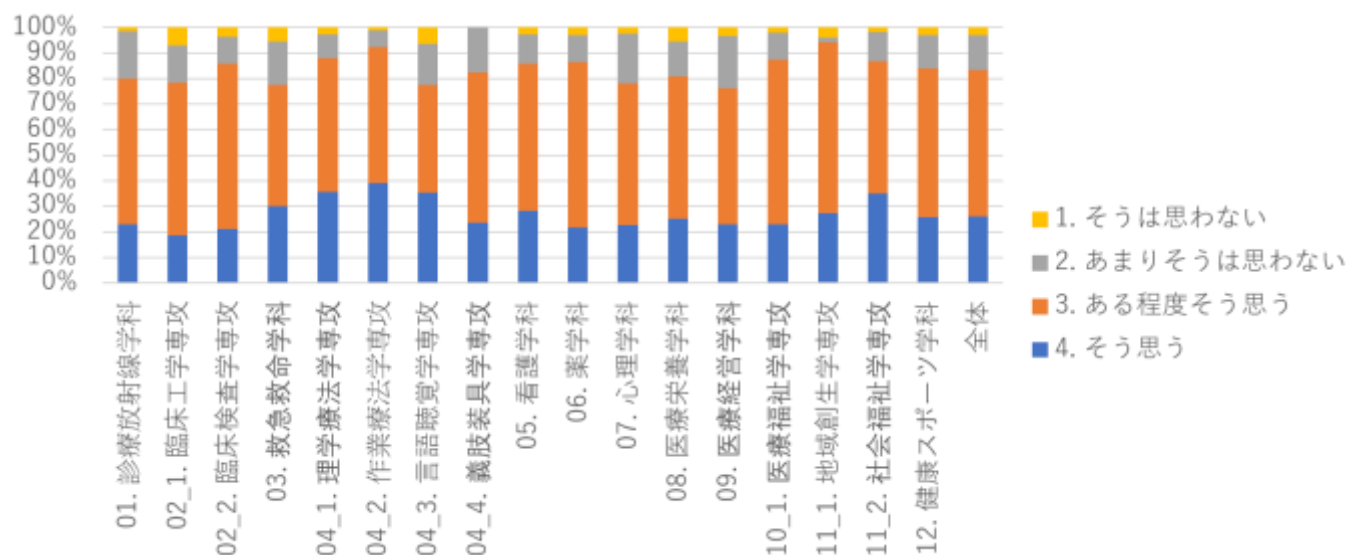
2-14 広国 LMS の利用は、あなたの学修に良い影響を与えている



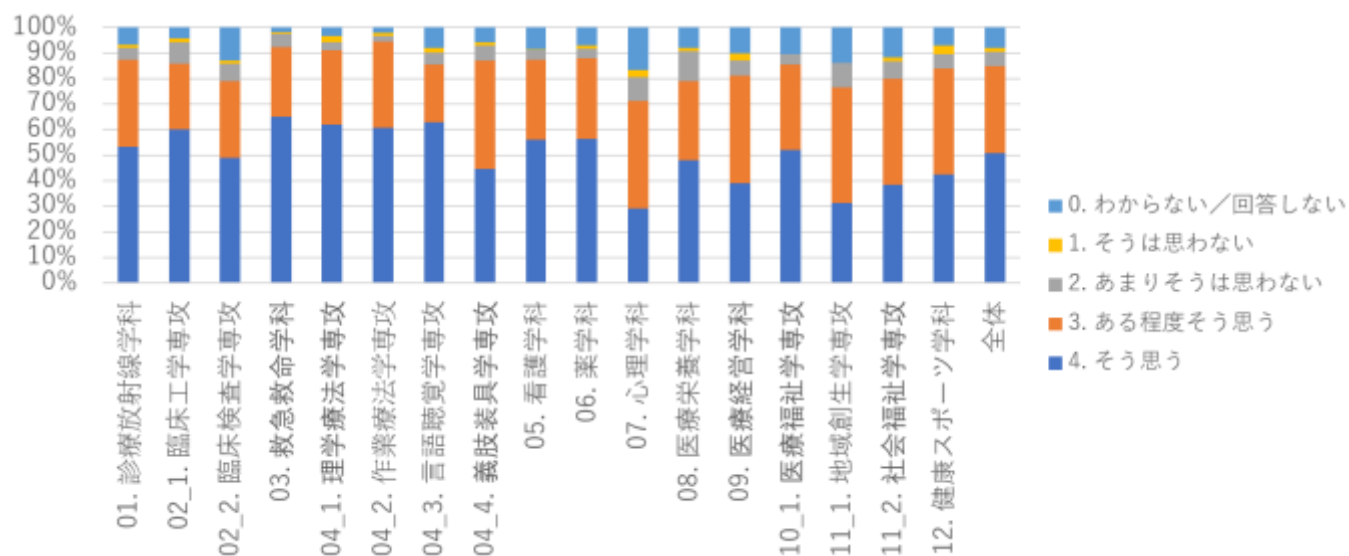
2-15 大学内の Wi-Fi の通信環境（インターネットの接続、データの送受信）は快適



2-16 学生同士が交流できる談話スペースは十分に設けられている



2-17 学費や生活費に関する経済的負担が大きい

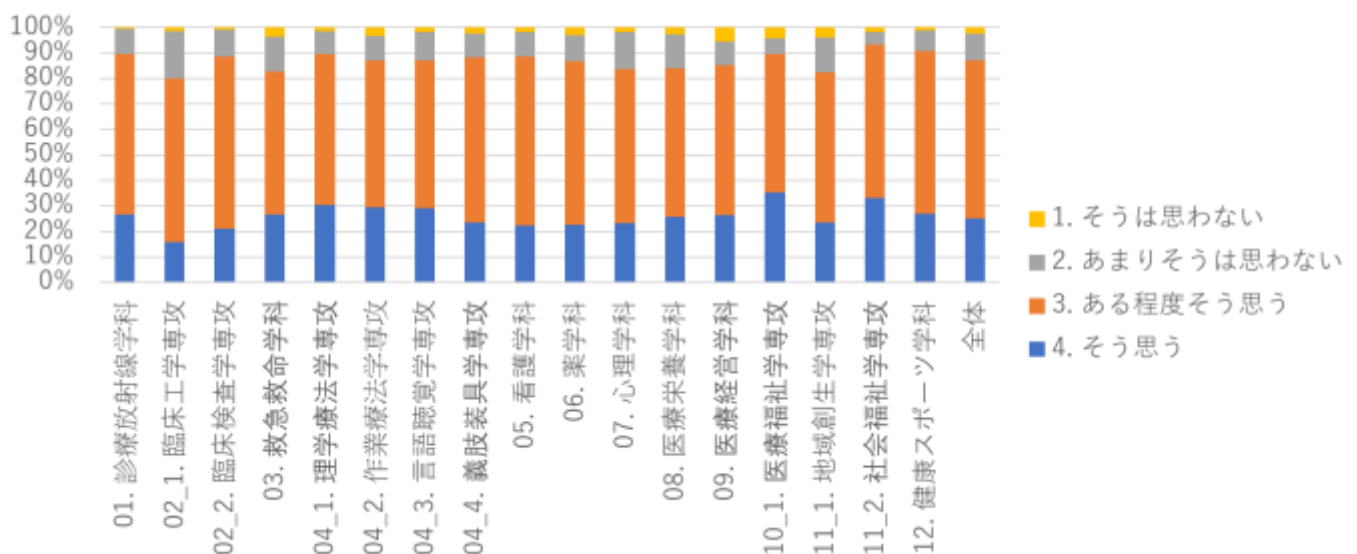


広国調査－3

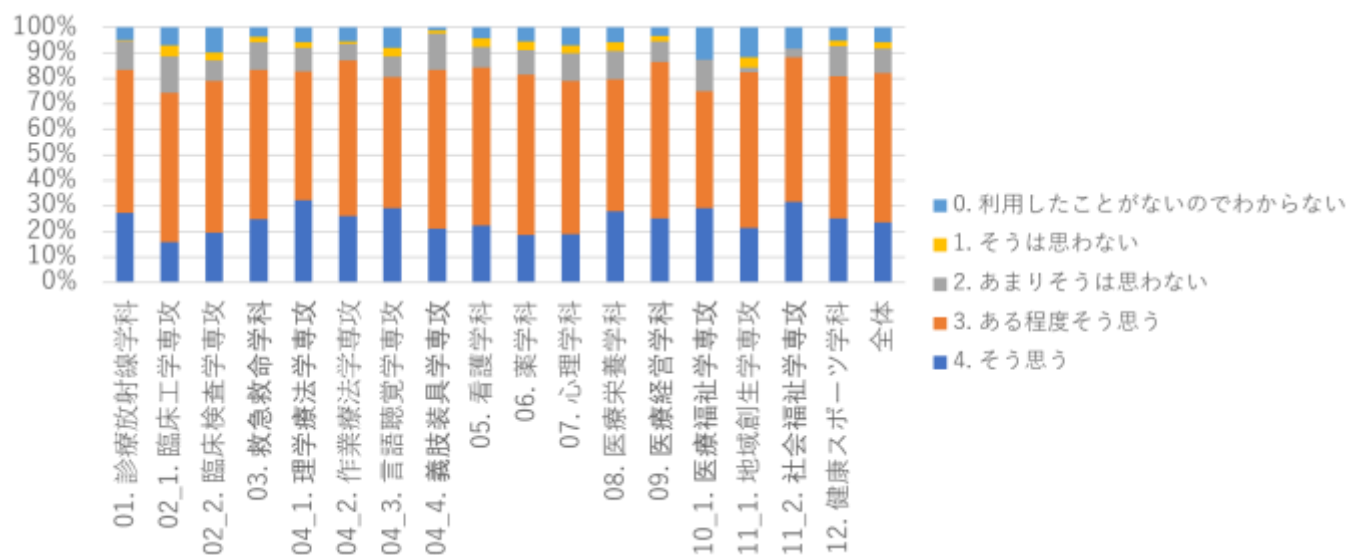
この設問は、広島国際大学が提供している各種サービスについて、学生の利用状況や評価を尋ねたものである。一部のサービスについては、利用していない学生も一定割合存在しており、3（奨学金など）は20%、4（課外活動）は35%以上、5（健康相談）は40%以上、7（キャリアセンター）は35%以上、8（留学・語学）は50%の学生が利用していなかった。特に、留学・語学に関するサービスについては、利用していない学生が50%に達しており、他のサービスと比較して利用状況に大きな差がみられた。

各設問における回答を次に示す。

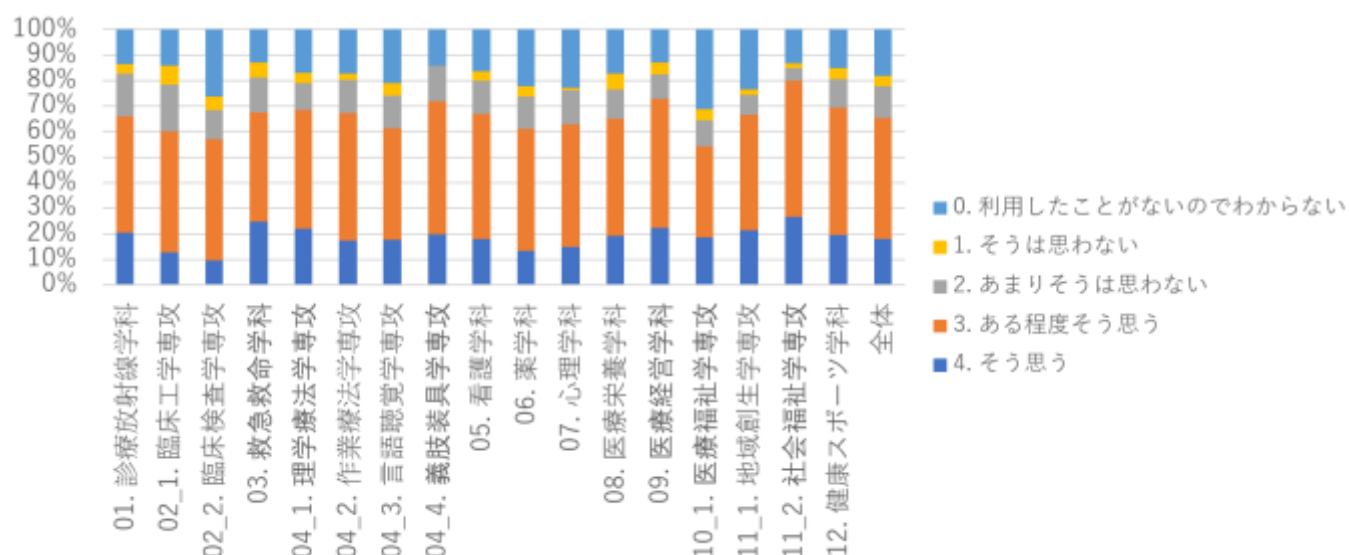
3-1 履修登録をはじめ、教務係での各種手続きは分かりやすく、スムーズに行える



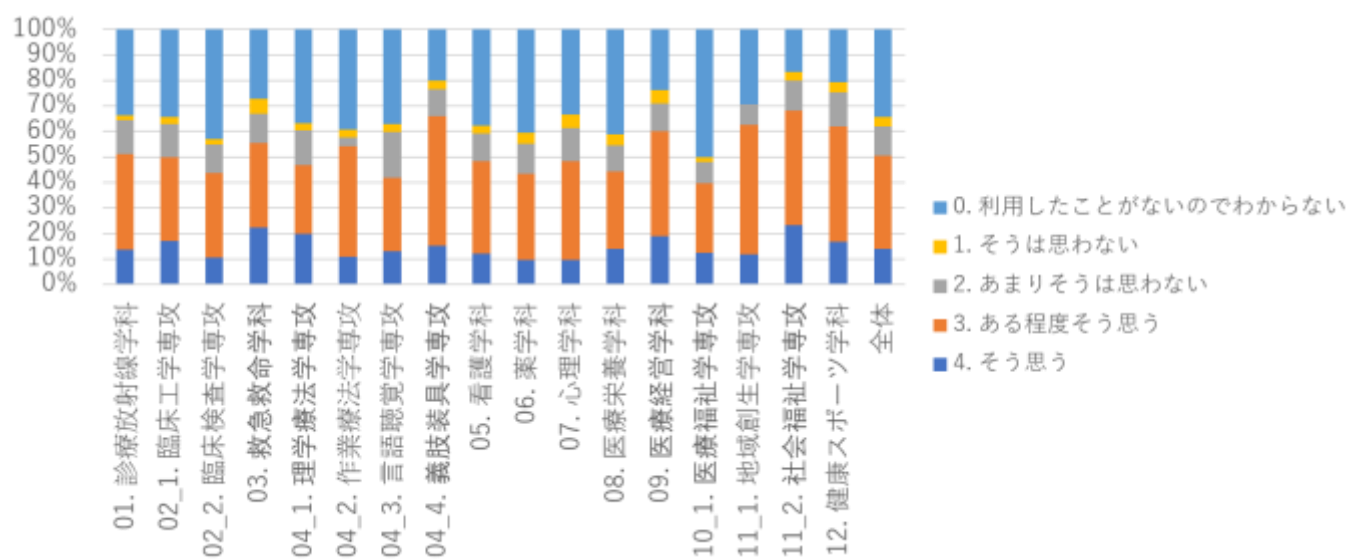
3-2 施設利用をはじめ、学生係での各種手続きは分かりやすく、スムーズに行える



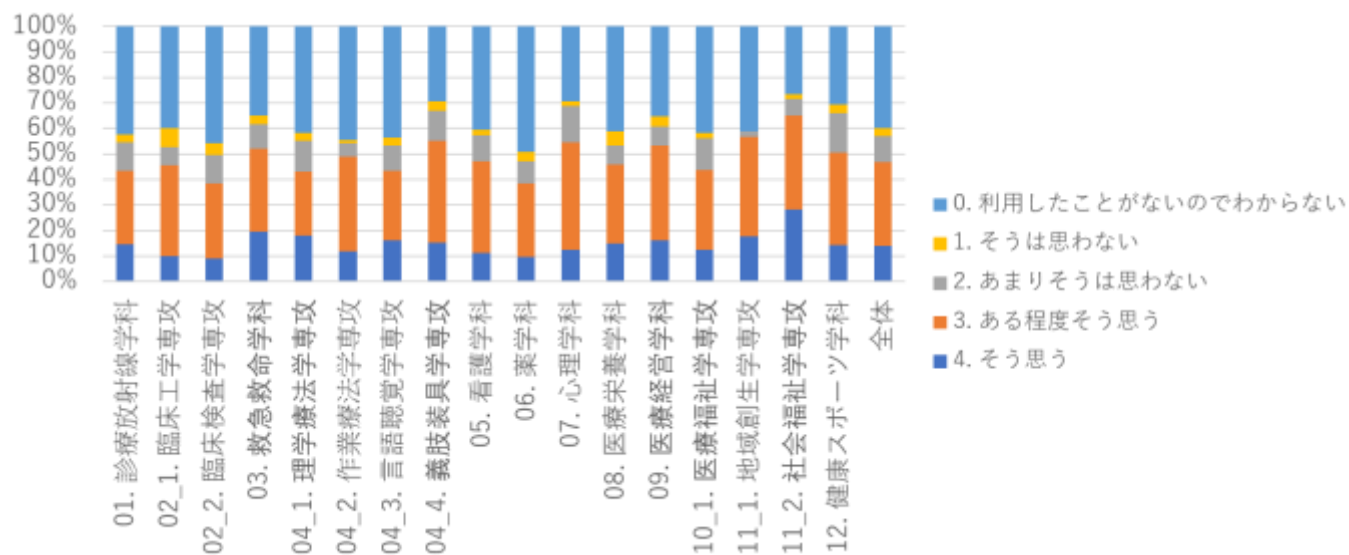
3-3 経済的な支援制度（奨学金等）についての情報提供や相談体制は十分だ



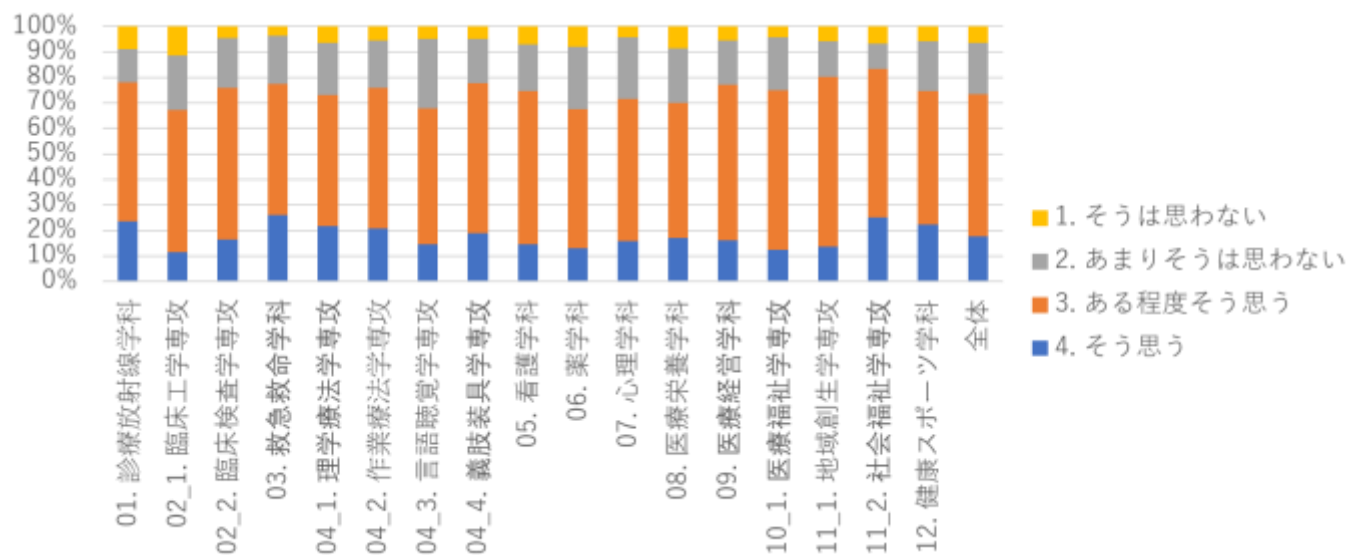
3-4 クラブや同好会など課外活動に対するサポート体制が整っている



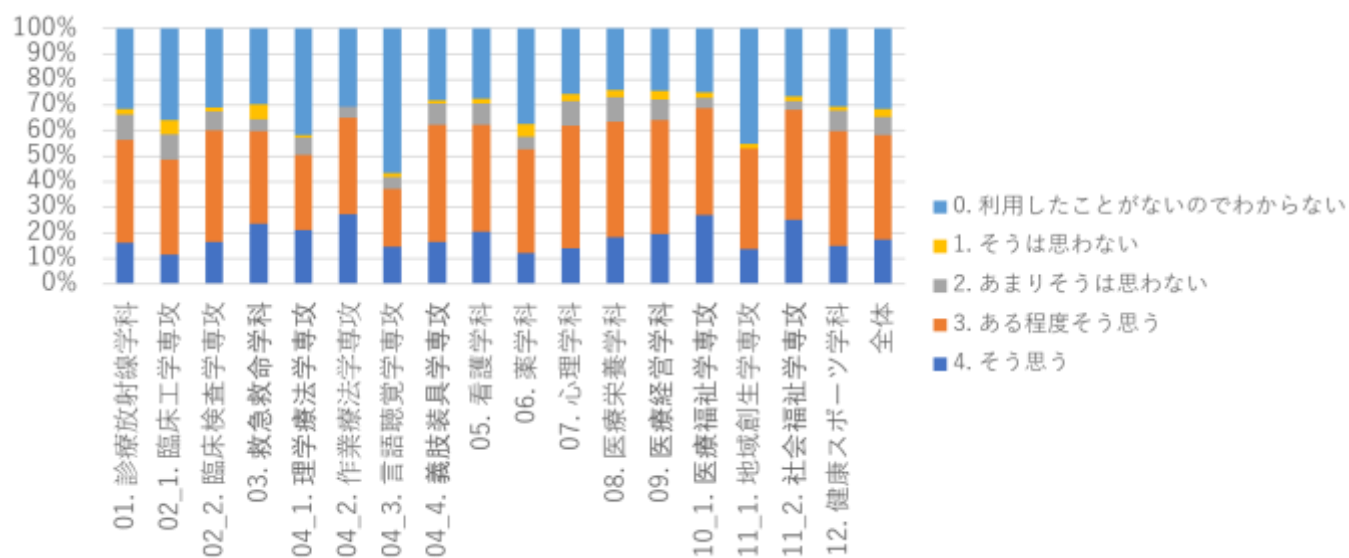
3-5 健康や心の悩みを相談したいときに、どこに行けばよいかが周知されており、また、その施設を利用しやすい



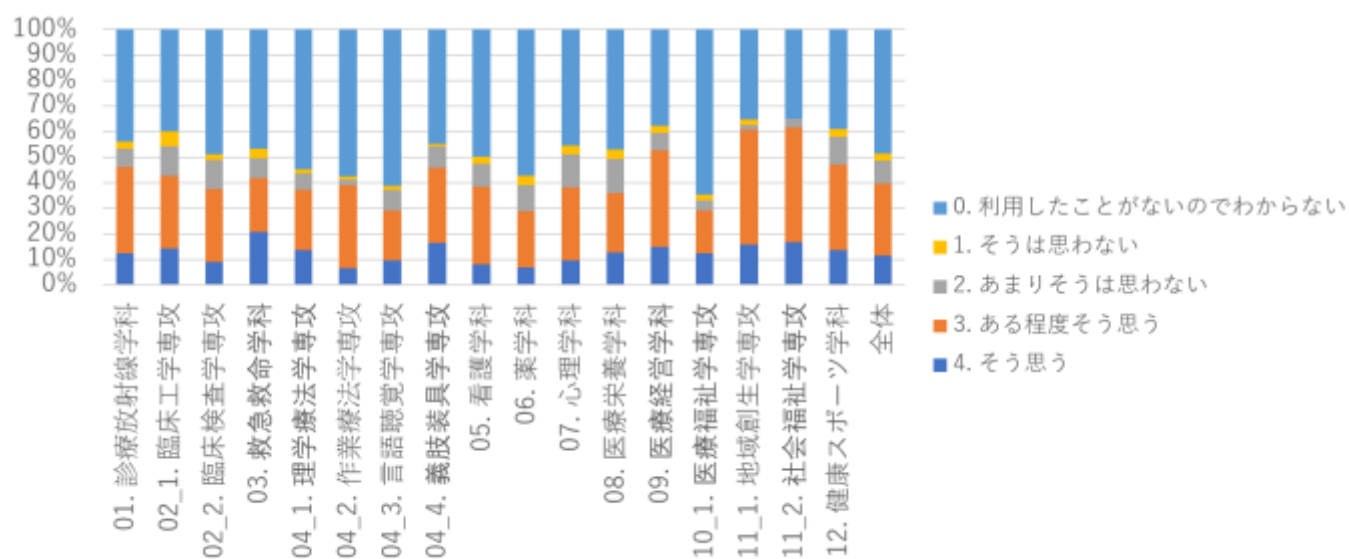
3-6 休講、試験、行事等のお知らせは分かりやすく、その提示のタイミングも適切



3-7 キャリアセンターの相談や講座、イベント、インターンシップ支援などは、自身の進路選択に役立っている



3-8 留学・語学学修・資格取得にあたって、大学からの支援を受けやすい

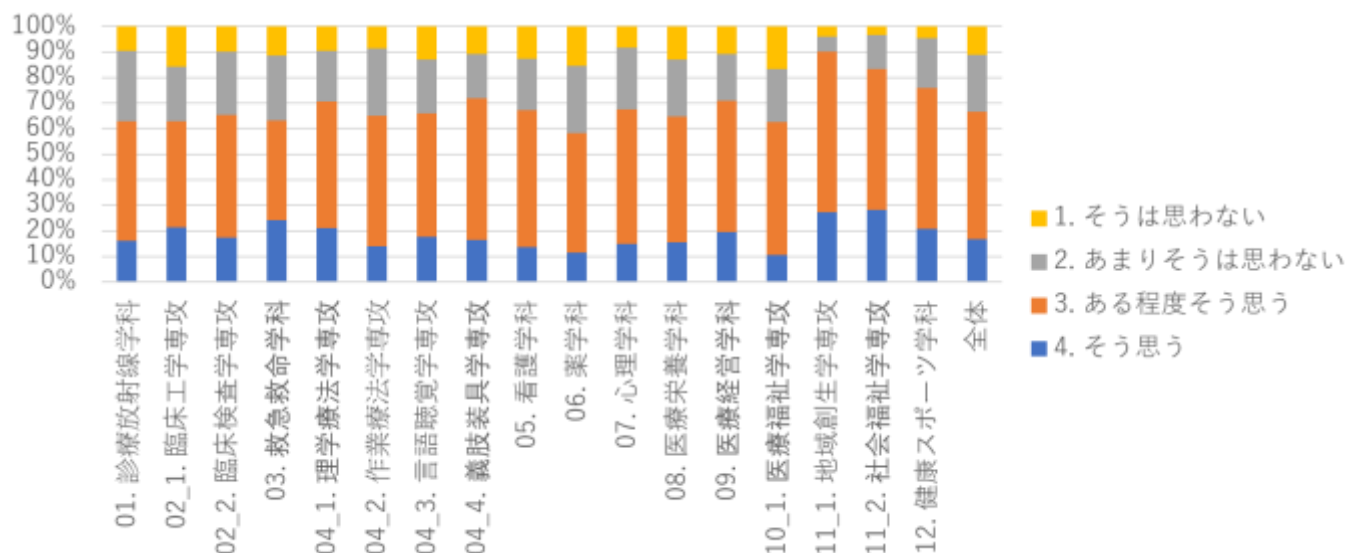


広国調査－4

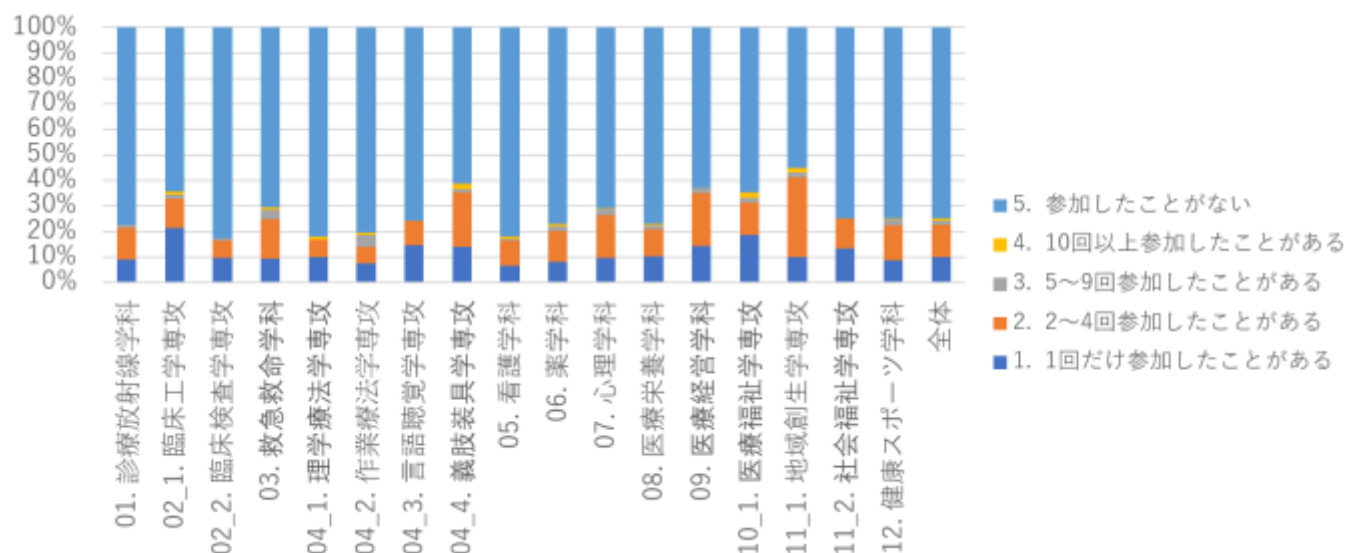
この設問は、広島国際大学における学生同士や他大学、地域、卒業生等との交流環境について、学生の認識や経験を尋ねたものである。1（学内交流）については、60％の学生が肯定的に回答した。一方、2（他大学との交流）では70％、4－3（地域との交流）では55％以上の学生が、交流活動に参加していないと回答しており、学内外における交流機会の利用状況には差がみられた。また、4（気軽に話せる友人・知人）については、90％以上の学生が「気軽に話せる友人・知人がいる」と回答しており、多くの学生が身近な人間関係を築いていることがうかがえる。なお、5（OB・OGとの交流の機会）については、60％以上の学生が否定的に回答しており、卒業生との交流に関する学生の認識を把握する上で参考となる結果が得られた。

各設問における回答を次に示す。

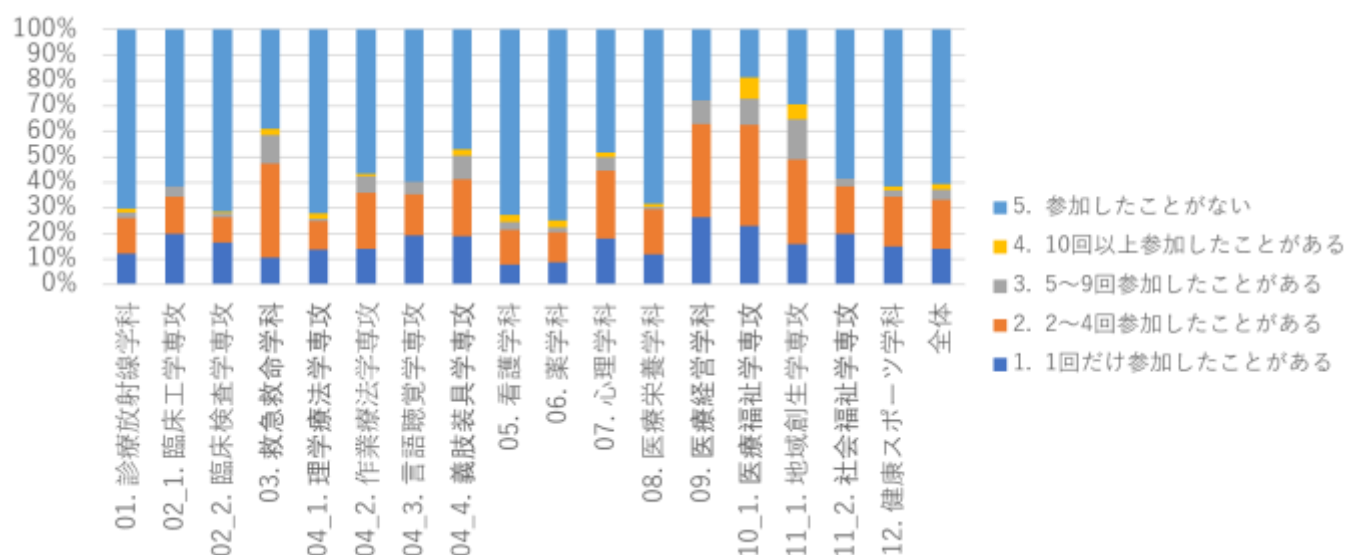
4-1 他学科の学生と、学びや活動を通じて交流する機会（例：合同授業、課外活動、イベント等）は十分に提供されている



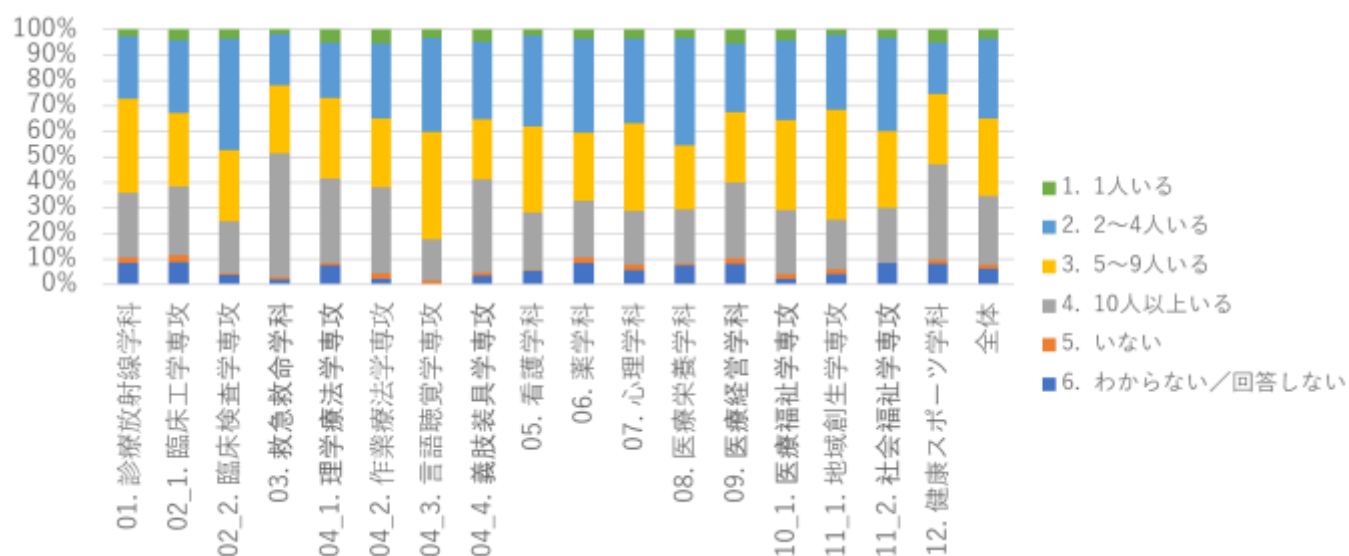
4-2 他大学の学生との交流（学会、ボランティア、オンライン企画、合同セミナー等）に参加したことがある



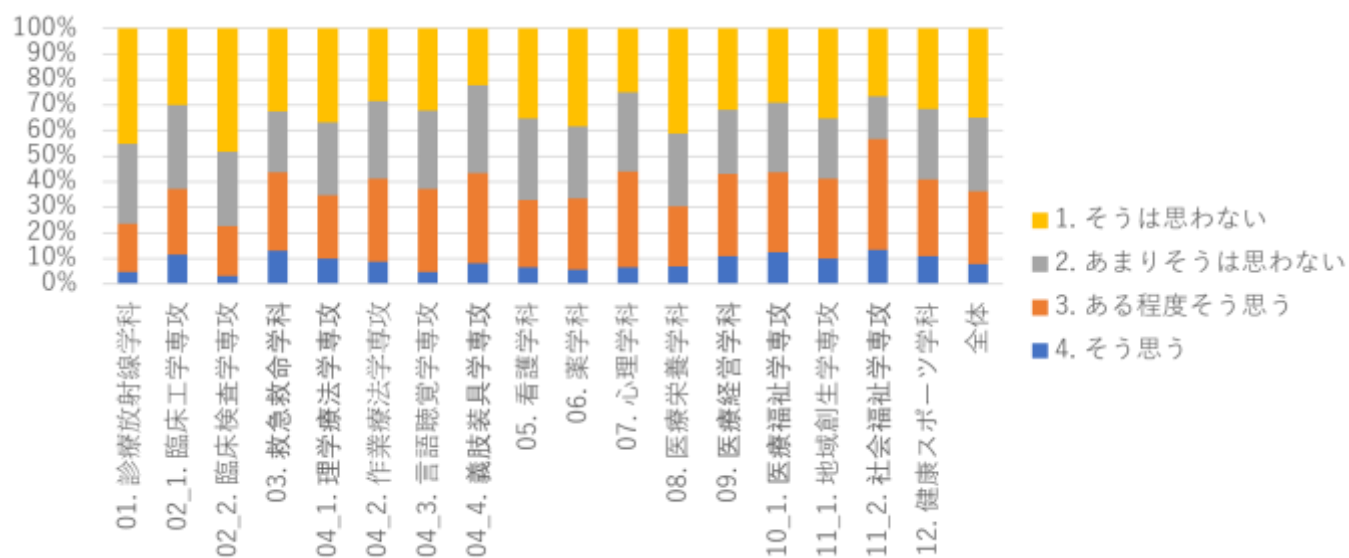
4-3 地域の人々に関わる活動（地域イベント、ボランティアなど）に参加したことがある



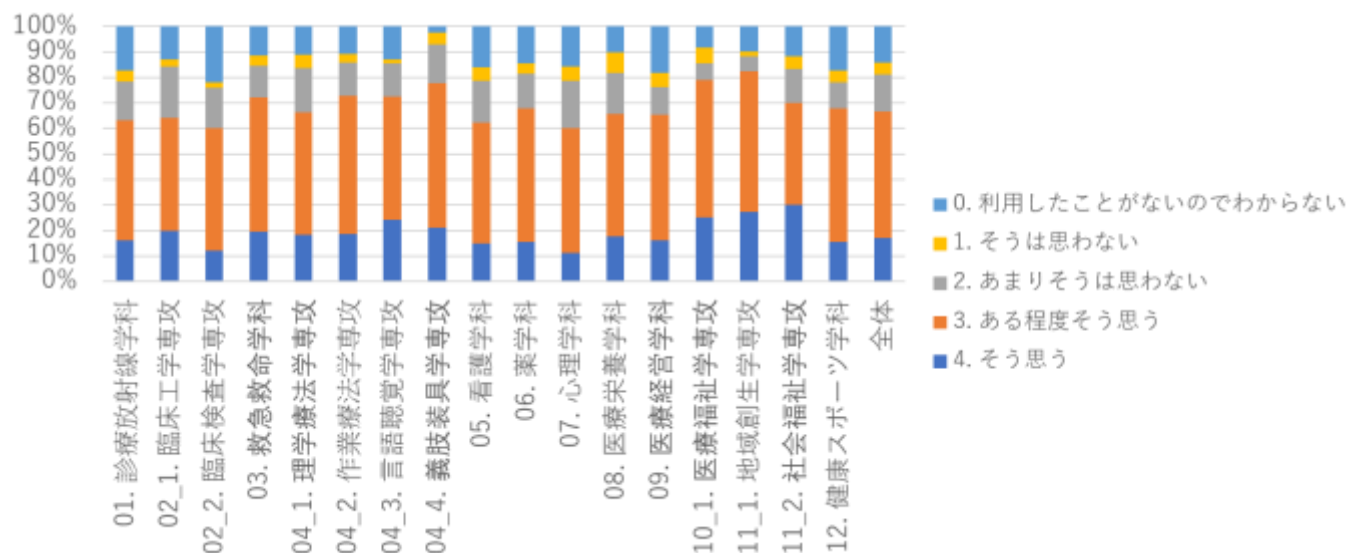
4-4 学内で気軽に話せる友人・知人がいる



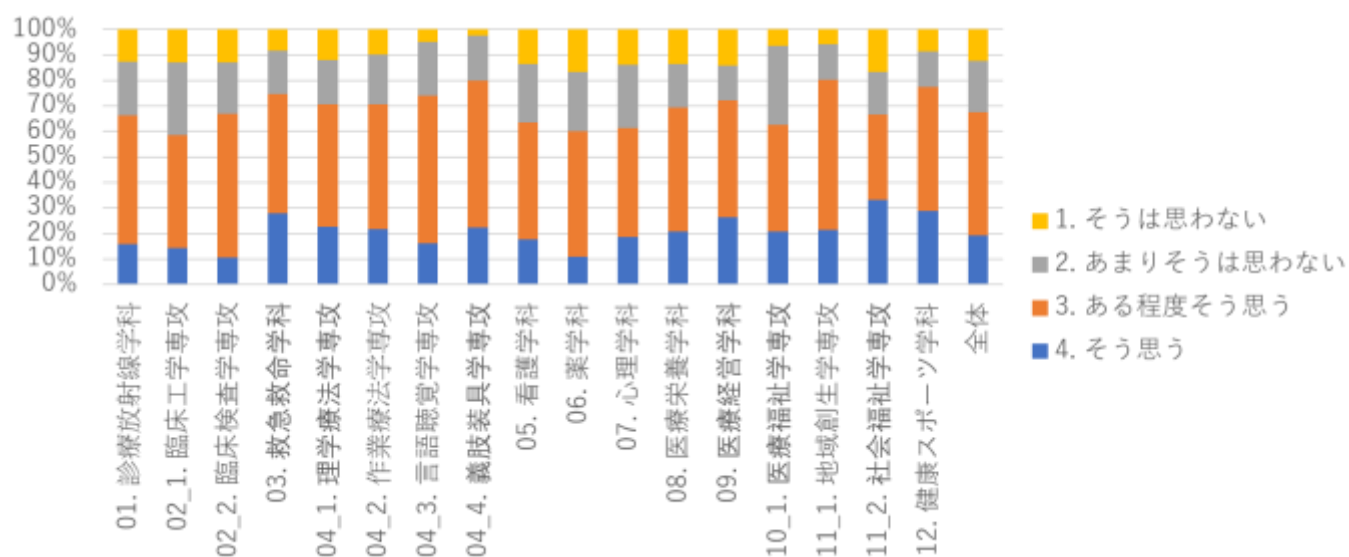
4-5 OB・OG と交流できる機会が提供されている



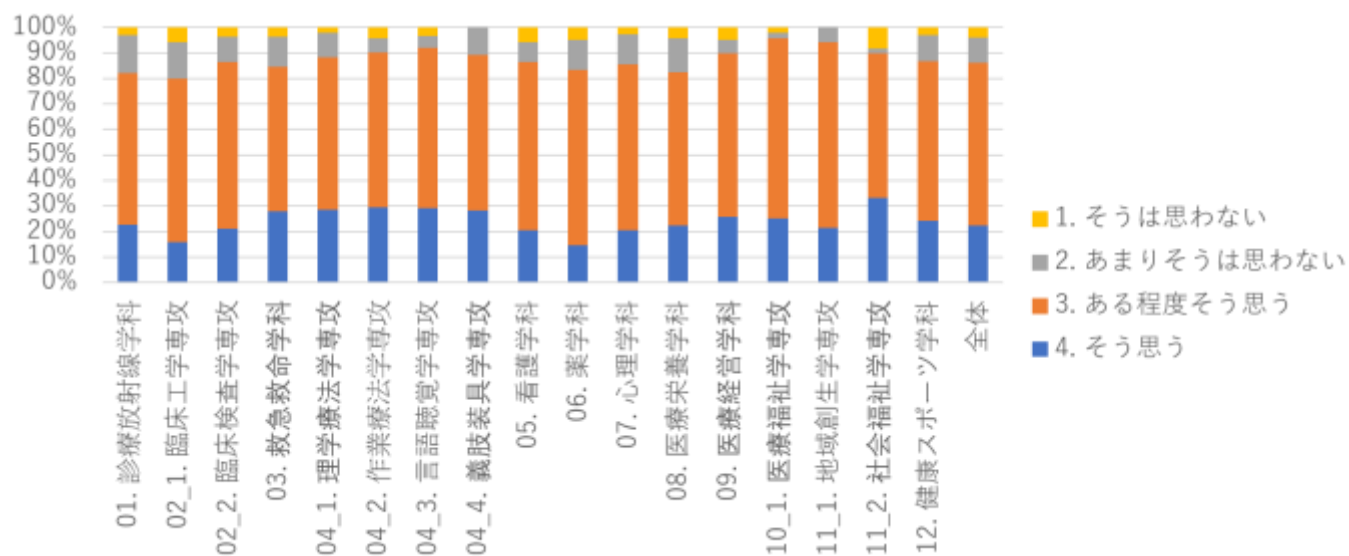
4-6 職員に対して、普段の授業や学生生活のことで気軽に質問や相談ができて いる



4-7 クラブ・サークル・ボランティア活動等の課外活動に参加しやすい雰囲気 がある



4-8 本学には、多様な価値観や背景をもつ学生が、互いを尊重しながら安心して学べる環境が整っている

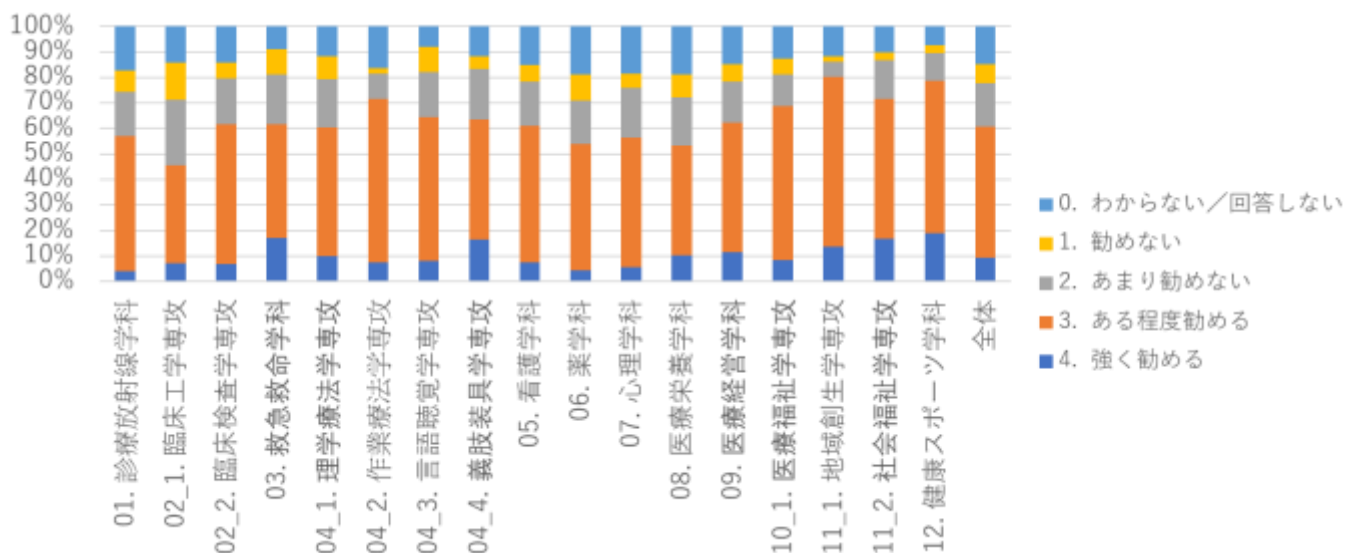


広国調査－5

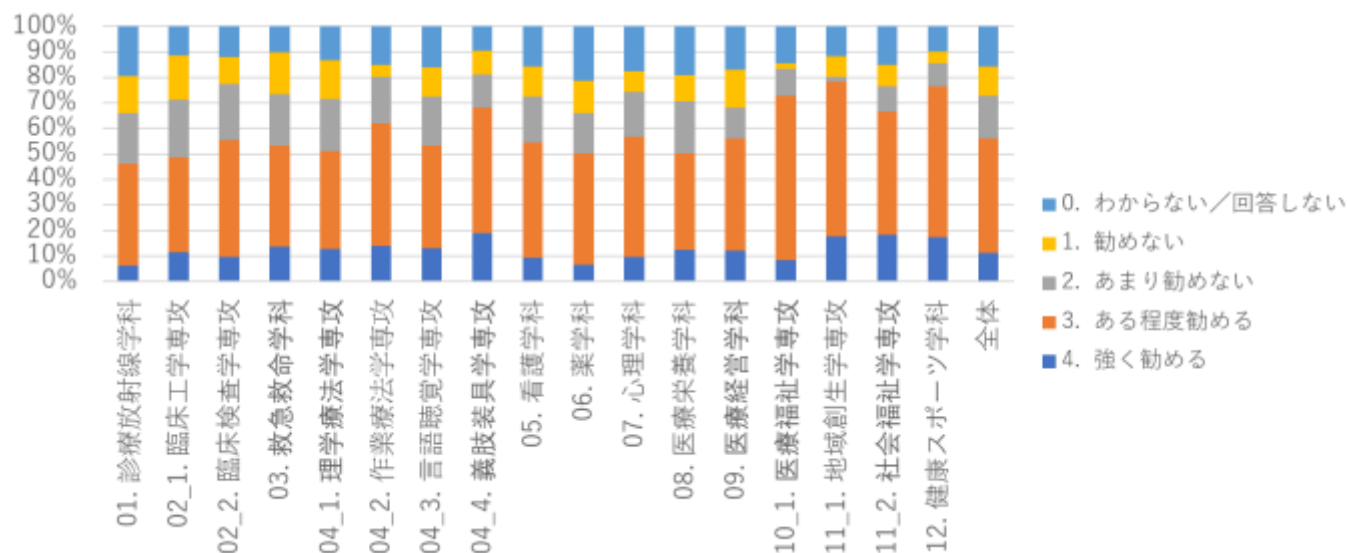
この設問は、広島国際大学に対する学生の総合的な満足度や評価について尋ねたものである。各項目における肯定的な回答の割合は、1（家族への推薦）が60%以上、2（自身への推薦）が55%以上、3（学科の満足感）が80%以上、4（大学の満足感）が80%以上であった。特に、学科に対する満足感については80%以上、大学全体に対する満足感についても80%以上の学生が肯定的に回答しており、所属する学科や大学に対する満足度は比較的高いことがうかがえる。なお、家族への推薦および自身への推薦については、肯定的な回答がそれぞれ60%以上、55%以上であり、学生の推薦意向に関する現状を把握する上で参考となる結果が得られた。

各設問における回答を次に示す。

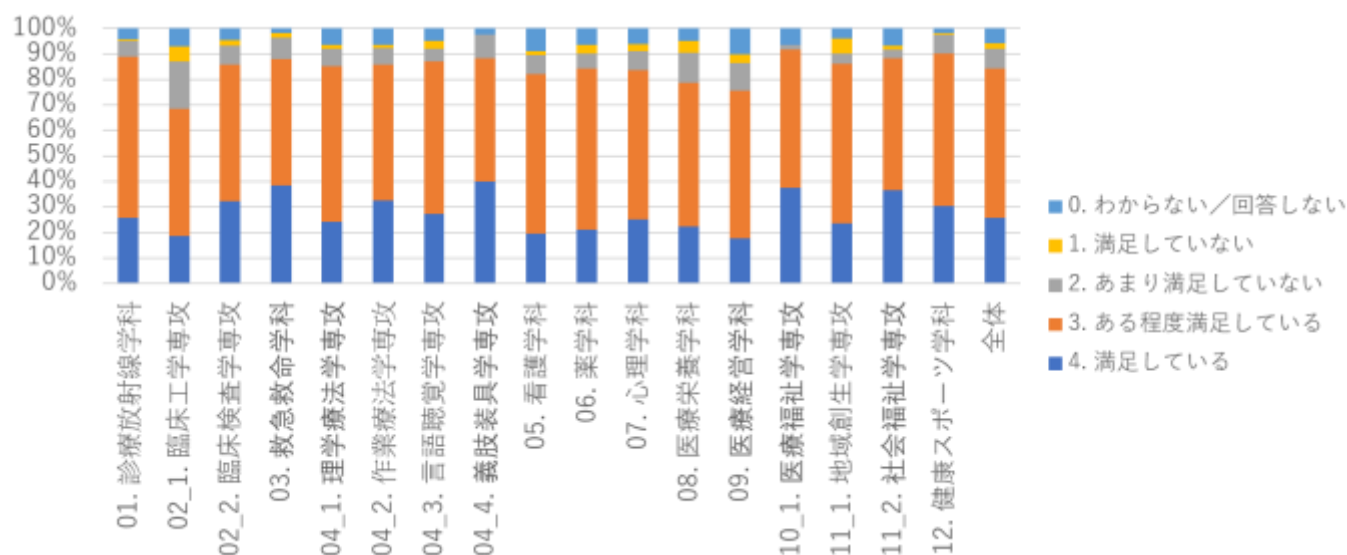
5-1 あなたの友人や家族が大学への進学を検討していたら、どの程度、広島国際大学のことを勧めますか



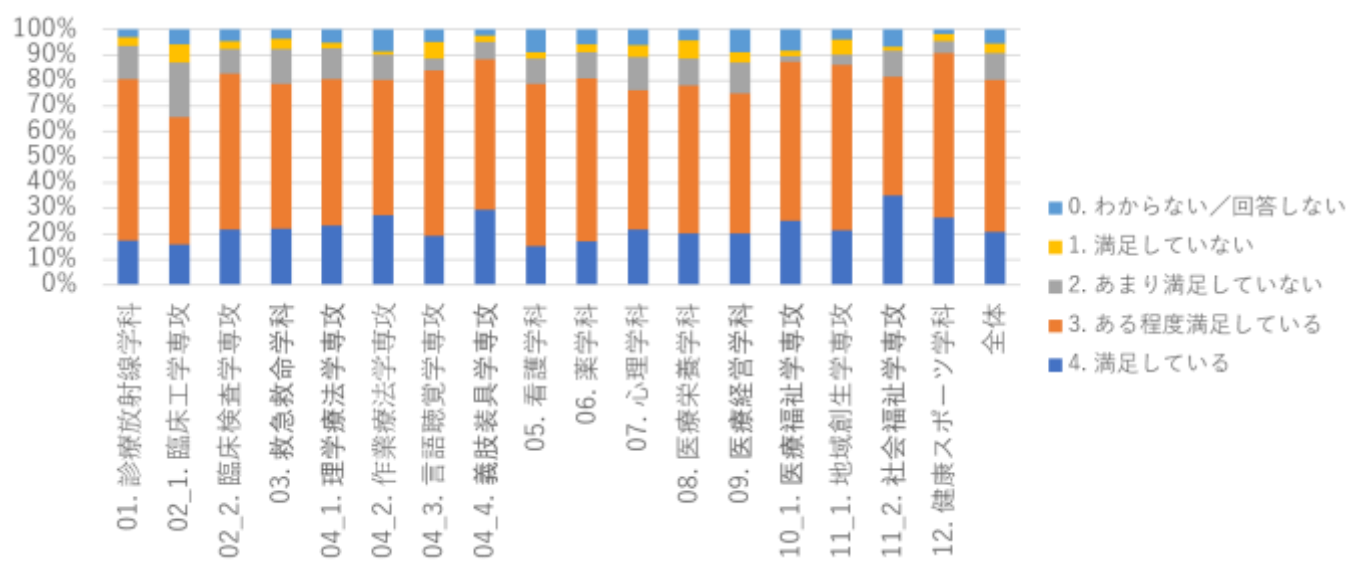
5-2 もし、あなたが過去に戻って大学受験をする立場になったとしたら、あなたはその自分にどの程度、広島国際大学を勧めますか



5-3 現在、あなたは所属する学科、専攻での学びに満足していますか



5-4 現在、あなたは広島国際大学での大学生活（全般）に満足していますか



総括

今回実施した「全国学生調査」および本学独自の「広国調査」では、授業や学修・教育活動、大学教育を通じて身に付いた知識・能力、大学での学びに対する認識、授業期間中の生活時間に加え、本学における教育、学修生活、各種サービス、学生間の交流など、多面的な観点から学生の意識や学修状況を把握した。

このうち全国学生調査については、文部科学省が 2024 年度に実施した「全国学生調査（第 4 回試行実施）」の結果が公表されている。全国共通の質問項目を用いた調査であり、2024 年度には全国の大学から 13 万人を超える学生が回答していることから、本学の結果を全国的な傾向の中で捉える際の参考とすることができる。

今回の結果を全体としてみると、本学の学生は、大学での学びや本学の教育を概ね肯定的に捉えていることがうかがえる。特に、大学での学び全体に対する認識については、「卒業時まで身に付けるべき知識や能力を意識して学修している」および「大学の学びで成長を実感している」に 90%以上、「教職員が熱心に教育に取り組んでいる」に 85%以上の学生が肯定的に回答している。

これらの項目を 2024 年度の全国学生調査と比較すると、全国では、「卒業時まで身に付けるべき知識や能力を意識して学修している」の肯定的回答が 82%、「教職員が熱心に教育に取り組んでいる」が 82%、「大学での学びによって成長を実感している」が 85%であり、本学はいずれも全国の結果を上回っている。こうした結果から、本学では、多くの学生が卒業時に求められる知識や能力を意識しながら学修するとともに、大学での学びを自身の成長につながるものとして受け止めていることがうかがえる。また、教職員の教育への取組についても、多くの学生から肯定的な評価が得られている。

一方、「学生の意見を通じて大学教育が改善されている」については、本学の肯定的回答は 65%であり、同じ区分の他の項目と比べると低い結果となっている。しかし、2024 年度の全国学生調査における同項目の肯定的回答は 52%であり、本学の結果は全国を上回っている。したがって、本学の 65%という結果は、他の項目との比較では相対的に低いものの、全国的な状況を踏まえると、本学に特有の大きな問題を示しているとは考えにくい。今後も学生から寄せられた意見を教育改善に生かすとともに、その取組を学生に分かりやすく伝えていくことが重要である。

大学在学中に経験した学修・教育活動については、本学では、インターンシップおよび海外留学・海外研修の参加率は必ずしも高くないものの、実際に参加した学生の約 90%がこれらの経験を肯定的に評価している。こうした結果から、授業科目による学修に加えて、大学外での活動や異なる環境・文化に触れる経験も、参加した学生にとって

有意義な学修機会となっていることがうかがえる。今後も、学生が多様な学修経験を得ることのできる機会を提供していくことが大切である。

また、全国学生調査では、大学教育を通じて身に付いた知識や能力についても尋ねている。こうした能力に関する学生の自己評価は、能力の種類によって評価度が異なることが全国的な状況としても表れている。このため、本学の結果についても、個々の項目の数値だけで評価するのではなく、全国的な数値との比較も踏まえながら、本学の学生が大学での学びを通じてどのような力の伸長を実感しているのかを捉えることが重要である。

さらに、今回の結果からは、学生が大学で経験する学修や教育活動の一つひとつ個別にみるだけではなく、それらを相互に関連付けて捉えることの重要性も示されている。例えば、卒業時まで身に付けるべき知識や能力を意識して学修している学生が多いこと、大学での学びを通じた成長を実感している学生が多いこと、教職員の教育への取組が肯定的に受け止められていることは、それぞれ別の設問ではあるものの、本学における学生の学びの状況を考える上で相互に関係する結果と考えられる。これらを総合すると、本学の学生の多くが、大学で学ぶ目的を意識しながら学修し、その過程を自身の成長として実感している状況がうかがえる。

一方、本学独自に実施している「広国調査」では、教育、学修生活、各種サービス、交流、大学満足度などについて学生の意見を尋ねている。今回の調査では、教育面において、学修の仕方に関する評価が85%、資格取得支援や実習・実験内容、授業構成については90%前後または90%以上の学生が肯定的に回答しており、本学の教育内容や教育環境が高く評価されていることが示された。また、教員との信頼関係についても80%以上が肯定的に回答しており、良好な学修環境が形成されていることがうかがえる。学修生活の環境については、安心・安全な生活環境に対して90%以上の学生が肯定的に評価しており、高い評価が得られた。さらに、学科に対する満足感は80%以上、大学全体に対する満足感も80%以上と、多くの学生が本学での学びや大学生活に満足していることが確認された。一方で、図書館やスポーツ施設、一部の学生支援サービス、学外交流や卒業生との交流などについては利用状況に差がみられたものの、これらは学生のニーズや関心の多様性を反映した結果とも考えられる。今後は、既に高い評価を得ている教育・学修環境の質を維持するとともに、各種サービスや交流機会のさらなる充実と利用促進を進め、学生が本学の提供する学修・支援環境をより有効に活用できるよう継続的な改善に取り組んでいく。

今回の2つの調査を通じて、本学の学生の多くが大学での学びや教育を肯定的に捉え、自身の成長を実感しながら学修していることが確認された。特に、全国学生調査の

うち大学での学び全体に対する認識については、2024 年度の全国調査と比較しても概ね良好な結果が得られており、本学における教育の成果を示す結果の一つと考えられる。

今後も、こうした調査を継続して実施し、学生の声に耳を傾けながら、本学の教育の良さをさらに伸ばすとともに、学生がより充実した学びを実感できる教育・学修環境づくりに取り組んでいく。